スクワ入りを行つた際にはス氏まで自ら陣頭に現はれ折衝を開始した。これは寵兒可愛さの餘りス氏自ら乘り出したものか、リ氏のはからひによつてス氏が出場したものか、不明であるが、いづれにしてもス、リ兩氏の間は更らに一段と堅牢となつた。この邊にリ氏の得意さがうかがはれる。

彼の經歷は傳記によると職業的革命家となつてゐる。出身はブルヂョアの家庭であるが幼少の頃から革命思想をもちプロパガンヂストとして活躍をなしてゐる。一八九八年、二十二歳の折共產黨に加盟し、翌年キエフ委員會の委員となつた。一九〇一年捕へられたがこれが逮捕の最初で爾來外國にのがれては又時機をみて露國に歸り宣傳にたづさはつた。一九〇五年ペテルブルグにおいて新聞『新生活』を創刊、翌年は外國に脫れて黨の武裝蜂起のための武器購入に奔走した。その後ヴォルガ沿岸やウラル地方に現はれて煽動した。革命後駐英大使となり、翌年外務人民委員部參與となつた。その後、エストニアに大使兼商務代表として赴任したことがあつたが、ずつと外務省に席をおき、露國代表として國際會議に參列、辣腕を發揮し、三〇年チチエリン氏の後を襲つて外相となつて今日にいたつてゐる。

(C) ウオロシーロフ

近代的裝備をもつて一躍世界的となつたソヴィエト聯邦赤軍は近年、就中滿洲事變後極東方面に精鋭部隊の集中、强力軍備の充實を斷行して以來わが國民に深い、しかも强い印象を與へるやうになつた。軍の價値はそれを統率する人物によるといふが、この赤軍の威力が叫ばれるやうになつて赫々たる威名をとどろかしたのはウオロシーロフ將軍だ。名將フルンゼの後をうけて陸海軍人民委員及び革命軍事會議々長となつた彼は昨年この陸海軍人民委員部及び革命軍事會議を改組し、新たに國防人民委員部を創設、自らその長官となつて陸、海、空三軍の實權を完全に掌中に收めた。のみならず、彼はソヴィエト政治の最高指導部たる政治局（ポリト・ビューロー）員であり、數百萬會員をもつ國防飛行化學協會（オソアヴィアヒム）や青年共產黨（コムソモール）を指導牛耳つてゐるからその實勢力は大したもので彼の一擧手一投足によつて百萬の常備軍はおろか數百萬民軍は直ちに行動を開始するといふ勢だ。

こゝで一寸赤軍に就いて解說せねばならぬが、そも〳〵赤軍といふのはプロレタリアの獨裁を確保するために不斷の戰をなす一種特別の軍隊であるといふのがその總稱、プロレタリアの獨裁とは

新階級がブルヂョアを對手とする最も熱烈、激甚、しかも非調和的な鬪爭の繼續であつて、これは共產主義が成就し、資本主義が過去の遺物となり、各種階級が無くなるまで續くといふ、だからソヴィエト聯邦の赤軍は單なる國民軍でなくプロレタリアの革命軍隊である。スターリン氏も『一國における社會主義の勝利或は革命の勝利をもつて既に目的を成就したかの如く心得べきではない。それは萬國におけるプロレタリアの勝利を促進すべき根據若しくは手段と思はねばならぬ。』といひ、レーニンは先きに一九一九年三月の第一次共產黨インターナショナル會議の際『プロレタリアの武裝、そしてブルヂョアの武裝解除が必要だ然らざれば社會主義の勝利は不可能だ。』と述べてゐる。かくてプロレタリアが勝てば戰爭の必要はなくなる。つまり赤軍は地上における最終の軍隊だといふのが赤軍存在の論法である。この筆法をもつて赤軍を共產黨の軍隊たらしむべくあらゆる努力をなしたのがウォロシーロフ氏でこの方法は美事成功し今日赤軍幹部の大部分を黨員で固め赤軍をして磐石の堅きにおいてしまつた。

ウオロシーロフ氏

昨年公稱常備軍六十餘萬を一躍九十四萬に增加し、かつ全軍隊の機械化、新鋭武器、空軍の充實

を斷行して世界に冠たる軍隊としたが、これはいづれもウォロシーロフ將軍の見識と辣腕によるものである。赤色廣場を壓するあの颯爽たる彼の閱兵振り、從容として人を呑むあの氣品さは、いづれも彼の人となりの大さを物語るものであるが苦鬪の半生を經て、なほこの寬容たる態度を持する彼には今後の進展が期待されてゐる。

クリメンテイ・エフレモウイチ・ウオロシーロフは一八八一年エカテリノスラフ縣の一水呑み百姓の家に生れた。僅か六歲で坑山勞働に從事し十五歲で製鐵所の職工となつた。その後三年、十八歲で早やくもストライキ運動に參加し逮捕されてゐる。これが革命運動における最初の試練であつた。その後益々革命運動にたづさはり一九一七年の革命達成までは殆んど逮捕、投獄、追放、脫走の繰返しであつた。革命成就後ペトログラードにおける赤軍支隊の組織に奔走してゐたがやがて同一使命のもとにウクライナに派遣された。一九一八、九の兩年ウクライナ內務人民委員となり、またハリコフ軍管區第十四軍團司令官を兼ねたがウォ氏は經歷の如く軍人出身ではない。しかしウクライナ地方の反革命軍と鬪つて、これを粉碎驍名をとどろかした。これが當時ツアリーチン（現在のスターリングラード）に本部をおいてゐた北コーカサス革命軍事委員長スターリン氏の認むるところとなり、これ以來スターリン、ウオロシーロフのコンビはいよいよ密接になつた。その頃ウォ

ロシ！ロフ氏は南ロシアの平原戰爭においては多くの騎兵が必要であると主張したが時の軍務長官トロツツキーやその幕僚はこれに絕對反對をとなへたので苦境にたつた。ウオロシーロフ氏の苦境を見て、彼を支持してたつたのがスターリン氏であつた。その後各地の戰鬪で騎兵が武勳を輝やかしたので彼も大いに面目を施した。彼の卓見は當時既に認められたが、彼はこの騎兵の增員、發達で滿足せず、つとに將來の軍事敎育、軍事技術の發展に留意し、卒先して自動車、航空機乃至は運輸交通機關等機械化方面に最大の努力をはらつた。

デニーキン始めウランゲル軍等の反軍をしりぞけ、一九二四——二五年、拔擢されてモスクワ軍管區司令官となり、廿五年にはフルンゼの逝去により陸海軍人民委員兼革命軍事委員長となつた。爾來十年專ら赤軍强化につとめ昨年常備軍の增兵と同時に組織の大變革を行つてあらゆる軍事機關を自己の掌中にをさめ赤軍護りの神として絕對的勢力を把握した。多事の國際政局に乘り出したソヴィエト聯邦後方の護りとしてたつ赤軍の任務は益々重且つ大を加へてゐるが、その統率者ウオロシーロフ氏の任務も又重且つ大である。

オーストリア　シユタールヘムブルグ

シユタールヘムベルグ公は、ハイムウエール（鄕土軍）の首領で、オーストリア國內に隱然たる勢力を持ち、本年七月十三日シユシニツグ首相が自動車事故で、身を引いた後、國防相より首相代理を引受けた同國切つての勢力家である。ハイムウエールといふのは、十年前のことオーストリアが戰敗後の政治的、社會的不安に陷つた際、シユタールヘムベルグ公が起つて、右翼の青年壯士等を集め、組織した愛國團體である。シユタールヘムベルグ公は、オーストリア舊時代からの公爵でハプスブルグ王家の下に位する名門の當主だが、その時國內不安を一掃する目的の下に、財產を擲つてチロル州等に散在する舊家臣數千名を古城數十に呼集めて、强力な左翼運動排擊の狼火を上げた。その後のオーストリア國內の不安增進と共に、益々この運動は發展し、今ではハイムウエール團員は十萬或はそれ以上、實際の數が判らない程、增加して、現オーストリア無二の大團體となつた。シユ公は本年卅七歲、大戰に出征して鍛へた勇氣

シユタールヘムベルグ公

と、率直、情熱的な、正義心の強い性格の持主である。その風采は、身の丈すぐれ、眉目秀麗、活潑な擧止動作は青年を惹付けずにはおかない。

シュタールヘムベルグ公は左翼をやつつけるために、キリスト敎社會黨と手を握つた。そして昨年、同黨のドルフス首相がナチスのため暗殺された時、公が內相から上つて首相になるとの噂があつた。しかし時機到らず公はそのまゝにおかれ、シュシニッグ文相が後繼內閣を組織した。そして今夏シュシニッグ首相の奇禍により、首相の事務を取ることになつたが、愈々シュタールヘムベルグ公の、ハイムウエールの時代が來たのである。オーストリアには今オット大公復辟問題、再軍備問題、獨立維持問題、約條改訂問題等がある。果してシュタールヘムベルグ公はよく、この重大時局に處するであらうか。ドイツがオーストリア合併を虎視耽々として狙つてゐるとき、ハイムウエールの存在また偉ならざるを得ない。

チエッコ・スロヴアキア　ベネシュ

われ〳〵の印象に刻まれたエドワルト・ベネシュといふ一個の人物は、先づ第一に典型的國際人だ。チエッコ・スロヴアキアについて誰でも知つてゐることは、老マサリックが、その萬年大統領で、ベネシュがその萬年外相であることだ。この二つの名によつて、中央ヨーロッパの眇たる新生國家の存在が、われ〳〵の多くのものの前にやうやく明かにされるのである。

萬年外相といへばフランスの故ブリアンをおもひ出す。そのブリアンの弟分としてのベネシュが先づ人の頭に浮ぶのである。戰後歐洲政局を特徴づけた國際聯盟政治における、いはゆる小國筋の旗頭として、終始一貫、忠實にフランスのお先棒をかついで活躍してきてゐる。ヴエルサイユ條約の平和機構にも、やうやくひびが入りかけた昨今、フランスの衞星と呼ばれてゐる小協商諸國の間にも多かれ少かれ動搖が生ずるに至つてをり、また、ポーランドの如きはフランスを離れて、却てドイツと接近するといふやうな苦肉の策に出るものさへ現れる始末で、爾餘のフランス與國の態度も昔日の如しとはいひ難い。その間にあつて獨りチエッコ・スロヴアキアのみは、如何なる場合においてもフランスとの締盟を弛めない唯一の國として殘つてゐるのである。しかも、このチ佛

の親善關係は主としてベネシュその人に代表されてゐる形だ。

戰後フランスにおけるブリアン平和外交の傳統は、依然として歴代政府の正調外交を支配してゐるが、今日の變局に際會して、この傳統政策に對する一部の反動がすでに現れてゐる。しかも、ベネシュのブリアン主義に對する信奉は實にフランス自身の内におけるよりも強く固いのだ。彼れの

ベネシュ氏

聯盟外交家、會議外交家としての、ジュネーヴ、ローザンヌ、等、等における無數の經驗によつて裏づけられてきた手腕と力量は、その背景を成す祖國の大小によるハンディキャップを附して考へるならば、決して大ブリアンの光彩に較べて遜色がないといつてよからう。ベネシュの聯盟主義に對しては、日本の國民は必ずしも好もしい聯想と記憶とを有するものでないかも知れない。が、かれの國際政治家たる半面において、われ〳〵はまた熱烈なボヘミアの愛國者としての彼れの本領を考へてやつていいであらう。

現在のチェッコ・スロヴアキア共和國は昔のボヘミア王國の故地を中心に、世界大戰を契機として舊オーストリア・ハンガリー帝國から獨立したスラヴ族の更生國家である。ベネシュはマサリツ

ク、故ステフアニツク將軍とともに、その建國の三鼎足であつた。そして彼は最初からその對外工作の方面を擔當した。パリのラテン街にささやかな本部を構へたチェッコ假政府の外相として、未だ國土なきチェッコ國民を先づ聯合諸國に承認せしめることに成功したのであつた。當時やうやく、三十を越えたばかりの白面の愛國書生にとつて、實に回天の大事業といふべきであつた。

チェッコの獨立運動ははじめから聯合國側の戰勝に運命を托してゐた。民族的寄合世帶を成してゐたオーストリア・ハンガリー帝國の解體作業たる民族解放運動を聯合軍諸國の利用に供し、その代償として、チェッコの獨立は獲得されたのである。ベネシュの外交家的手腕がその間に如何に大きな貢獻をしたかはまことにおもふべきだ。チェッコの立國の基礎はヴエルサイユ平和條約の體制の維持にかかつてゐる。ベネシュがその生みの親の一人として果した役目は、更に彼がその育ての親としての役目に引繼がれてゆかなければならなかつた。新生チェッコ國の保全のために、彼がフランスと固く手を握つて聯盟主義の支配を歐洲國際政局の上に確立しようと努力してゐることは、彼としてはまた當然の歸趨であるといはねばなるまい。ベネシュの假政府時代からの二十年に餘る外相生活は、ボヘミアの志士の一貫した使命の延長に外ならぬのである。

現在のチェッコ・スロヴアキア共和國は、チェッコとスロヴアックとの兩スラヴ族の外にも若

干の少數民族が包含され、民族的には純一でないが、ベネシュは生粋のチェッコ人に屬する。一八八四年にボヘミアの一農夫の子として生れ、プラーグの大學を卒へた後、パリのソルボンヌ、ベルリン、ロンドン、ディジョン等の方々の大學に遊學してゐる。語學も英、佛、獨いづれも、みな巧みである。學者としても立派に一家をなし、現に劇務の寸暇を割いてプラーグ大學に社會學を講じてをり、一九二九年には、フラスの學士院會員に擧げられてゐる。『ボヘミア獨立運動』『大戰回顧錄』その多無數の著述があり、各國の新聞雜誌への寄稿も山を成してゐる。

ベネシュは小柄で、頭のてつぺんの禿げ上つた、溫顏の持主である。細い、淸くすんだ青い眼がいつもニコニコと笑つてゐる。話しをするときのゼスチュアに非常な表情をもつてゐるが、殊にそのきびきびとした手の動かし方は、强い精力的な印象を人に與へる。獨立運動に苦鬪したらしい險しいおもかげは少しも見られない。夢をむくいられた革命家の永遠の青春が、今五十一歳のベネシュを和やかに、包んでゐる。

マサリック大統領も、重選四回、今年八十五歳の高齡である。ベネシュが第二代大統領の榮位を襲ふ日も遠くないかもしれない。とまれ、昨今の歐洲の風雲は彼れの使命の前途に愈々重責を加へてゐる。

ハンガリー　ゲムベス

ゲムベス氏

ハンガリー首相ユリウス・ゲムベス將軍は本年四十九歳の働き盛りで、一九三二年までは國防相であつたが、同年ベツレン伯の後を承りて首相となり、本年初め元帥の稱號を授けられ、ハンガリー最高の名譽の人となつた。彼は現ハンガリー右翼の總師である。その率ゆる國民聯合黨は、議會に絕對多數を占め同國切つての勢力であり、今後、獨裁化の形を取る中心となるかも知れないのである。ゲムベス將軍が一九三三年に首相となつた時、國民の一部は彼が政權を得て何をするか判らず、或はやり過ぎてハンガリー國政を危くしはせぬかと疑つた。しかし、幸ひ結果は豫想に反して、彼の就任と共に、戰敗による十餘年の經濟的不況は反つて回復の道を辿つた。同國の金融恐慌はやみ、豫算の均衡は取れ、ペンゴ貨の暴落は止まつた。農民の負擔も約六割方輕減された。こゝで國民は初めてゲムベス首相の爲すあるを知つたのである。そして國內情勢は今やゲムベス首相の意中のものとなりつゝある。

ゲムベス首相以前から、ハンガリーはイタリーの親交國となり、首相自らはムッソリーニに私淑してゐる。イタリーが親佛的傾向を取ると共に、ハンガリーも多少フランスに近くなつたやうだが、實際は國民悉くドイツと親しむ氣持が一杯である。しかしハンガリーは國際聯盟から經濟的支援を受けてゐるので、ドイツと手を握ることは仲々困難である。またマジャール人二千萬の國民は現在の王なき王政、ホーテイ攝政下のハンガリーよりも、一段と輝かしかりしハプスブルグ王朝の昔を追憶して、同王家復辟の念やみ難きものがある。この膨湃たる國民の希望を察し、ゲムベス首相は、今年七月十三日議會で豫て國民聯合黨もその政綱に掲げてゐるトリアノン條約改訂、王政復活の重大聲明を發した。

『ハンガリーは國民のためを思ふ王の國王となることを望んでゐる。政府はやがて列國とも圖り、ハプスブルグ王家のアルブレヒト大公の復辟を實現するであらう。』

しかしこの問題が困難なのは隣接の諸小國が大反對をしてゐることだ。東歐バルカンの諸小國に取つては、ハンガリーが王政を布き、宛もオーストリアにハプスブルグ・ローレン王家のオッド大公が復辟の氣運成熟してゐる際であるから、この大戰前まで一つ國であつた强國が、また同じ血統の王家の下に合一して昔の勢力を盛返すことになる恐がある。そして近隣の諸國はサン・ゼルマン

條約でハンガリーから得た國土を返さねばならぬやうな狀態に立ち到るであらう、他國がハンガリーの王政復活を拒むのはかゝる理由からである。

ハンガリー國民は嘗にトリアノン條約改訂のみならず、サン・ゼルマン條約の改訂をも熱望してゐる。この兩條約改訂は、國土と軍備回復の念から發してゐるのはいふまでもない。かゝる時、三月十六日發せられたドイツの爆彈宣言はハンガリー國民に非常な刺戟を與へたのである。ゲムベス首相の肚は、まづ國民に王政への希望を叶へて、ついでサン・ゼルマン條約の改訂に移るつもりらしい。けだし歐洲多難の折から、ゲムベス首相はハンガリーを背負つて、重大な責務を持つてゐるのだ。

ルーマニア　チチユレスコ

ルーマニア外相ニコラス・チチユレスコ氏は歐洲外交界の古强者だ。彼が如何に外交場裡のヴエテランかは、彼の經歷を見れば直ぐ判る。チチユレスコ氏は一九一七年大戰の眞最中に藏相となり、大戰終つてトリアノン條約締結に當り署名者をつとめた。一九二二年藏相から駐英大使に轉じ、ついで國際聯盟代表、ヘーグ會議、軍縮會議等に代表をつとめ、國際外交學會の副會長、第十一回聯盟總會議長となり、一九二七年外相に就任、二八年再び駐英大使となつたが、ソヴイエト聯邦との不侵略條約締結問題で政府と意見を異にし、三二年辭表を提出、歸國した。マニウ內閣が出來て外相に復活、ついでヴアイダ・ヴエヴオード內閣、デユカ內閣に歷代外相として留任した。一九三三年のロンドン經濟會議では首席代表であつた。

チチユレスコ氏

チチユレスコ氏は本年五十二歲、國王カロル陛下の信任厚く、現タタレスコ內閣でも長老として

重きをなし、ルーマニア外政を一手に引受け活躍してゐる。彼の外交的功績には、一九三三年のソヴイエト聯邦との不侵略條約締結などがある。元來がブカレスト大學の民法の教授であつたので法律問題は頗る明るい。面白いことには、その風丰が頗る西洋人ばなれがしてゐて、國際會議等では日本人とよく間違はれる。彼も來るべきダニューブ會議では立役者の一人となるであらう。

ポーランド　ベック

ポーランド外相ヨセフ・ベックは一八九四年十月四日、ポーランドの西部ガリシアで生れた。ガリシアは世界大戰まではオーストリアの屬地であつた。ベックの父は、彼があくまでもポーランド獨立の爲めに役立つ人間となるやうに薫育した。この感化の下に、一九一二年六月、大學を卒業し同年秋にはレンベルグの工藝研究所に入學したが、世界大戰の勃發した時には、丁度學業を終へてウィンに滯在してゐた。この世界大戰勃發と同時にベックはピルスズキー元帥がガリシアで組織した祕密軍事團體の一員としてクラカウに去り、一九

ベック氏

一四年八月十四日には、ピルスズキー義勇軍の一少尉として、ロシア國境を越え、ロシア戰線で二年間服務した後ピルスズキー元帥から重大な密命を受けて、ロシア戰線の裏側であるウクライナに赴き、極祕の裡にポーランド軍事團體を組織することとなつた。ベックは最初からピルスズキー元帥に協力しその手足となつて活躍したので、元帥から非常な信頼を受け、常にピ元帥の政治的計

劃の密使として母國の爲めに盡瘁した。彼はいつも元帥の計劃に參劃すると共に、元帥の理想とするところをよく諒解し、元帥を先生と仰いで、その命令には無條件に從つたので、元帥の方でも益々信用を深め、最も重大な政治的使命は必ずベックに依頼することとなつた。

一九二〇年、彼はポーランド・ロシア戰爭に參加し、或る砲兵部隊の指揮官として活躍したが戰爭終了後、ワルソーの陸軍大學に入學し、一九二四年にはパリ駐在の陸軍武官に任命され、一九二六年にピルスズキー内閣の陸相に拔擢された。この時、彼は陸軍大佐であつたが、ベックの政治的經歷は一九三〇年、プリストル内閣の無任所相からスタートし、一九三一年にはピルスズキー元帥によつて外務次官に推薦された。さうして一九三二年十一月二日、ザレスキー外相の後を受けて遂に外相に任命され、今日に及んでゐるものであつて、年齒未だようやく四十一歳の男盛りである。ベックは幾多の政治的手腕を發揮し、外交的成功をも齎してゐるが、彼は先づ第一に、外務省の改革に成功し、彼の指導の下に、ポーランドの外交政策は、不名譽なる妥協や、不利なる交渉から離脱し、ベックに依つて始めてポーランドの外交には新しい精神が吹き込まれた。例へば、ソヴィエト聯邦とドイツとが密接な關係を結ばうとしてゐたのを逸早く觀破して、やめさしたのもベックの外交的手腕の現はれであつて、彼の外交方針を一口に盡せば、全世界に向つて、ポーランド

の重要性を認識させるにあるといふ。

ベックは立派な軍人としての本質を具有すると共に、優れた外交官であり、熱血的愛國者でもあるが、彼が人間としての最大長所は、常にポーランドのことを念頭に置いて奮勵努力し、一個人のことや、自分一個のことは考へたことがないといふことである。

トルコ　ケマル

いま歐洲の或は世界の四大獨裁者といへば誰でも躊躇なくムッソリーニ、ヒットラー、スターリン、ケマル・アタチュルク（前名パシャ）の名前を擧げるであらう。歐洲現政局の概念を得るためには先づこの四巨人を中心として視野を擴げて行けば比較的容易にその全貌が浮びあがつて來る。トルコの獨裁者ガジ・ムスタファ・ケマル・アタチュルク大統領は前三者と比較すれば國際的本舞臺の中心から稍々離れてゐるので彼等ほどに華々しいスポット・ライトを浴びず、何となく役者が一枚下るやうにも感ぜられるが、それは彼が地の利を占めぬだけのハンデイキャップによるもので、その閲歴、業績、その膽、智、熱情、思想など、一小國トルコたらずとも優に一大國の巨人たり得る素質を十二分に備へてゐる。ムッソリーニとヒットラーがファシズムのチャムピオンであり、スターリンが共産主義國の專制的獨裁者であるに比し彼ケマルが共産主義的傾向を持ちながら多分に民主々義の思想を取り入れて過去十數年間獨自な政

ケマル氏

治的、社會的、經濟的改革を着々實現せしめたことは他の追隨を許さぬユニークな巨大な存在を歴史づけてゐる。しかも歐洲の噴火地帶をなすバルカンの一角にいまや巍然たる獨立國を擁して黑海から地中海への重要通路たる、ダーダネルス海峽を扼しつゝ、寄らば吠えん氣構へを示す彼ケマルの存在は歐洲の政局展望上決して看過出來ない。ドイツが本年（一九三五年）三月再軍備宣言をした結果、國際聯盟でオーストリアの再軍備許容問題起るや、突如トルコ代表がダーダネルス要塞地帶の防備擴大を要求した。この問題が噴火地帶バルカンの一火山脈であることは言ふまでもない。

ケルマは一八八〇年生れで今年五十五歳の働き盛りであるが、彼の今日までの生涯は變轉極まりなき波瀾重疊に富んでゐる。彼の生地はサロニカで父は土地の平凡な一稅關吏をつとめ後に材木を商つたが、彼の幼時に病沒したので良妻賢母型の母の手一つで育てられた。中學在學中アラビア語の教師に虐待されたので憤慨して退學し、家族に內密で陸軍士官學校の豫備校に入つた。頭腦明晰の彼は學業に秀でゝ斷然、他生徒を壓し、特に數學では受持教師からケマル（アラビア語で『完全』といふ意味）の尊稱を與へられたほど天才的智能を發揮した。それ以來彼はムスタフア・ケマルと呼ばるゝに至つつた士官學校在學中に早くも政治に興味を持ち、時の政府の暴政を盛んに攻擊した

が、教官や學生間の評判が善かつたので一回も舌禍にかゝらなかつた。しかし後にその政治運動が祟つて、一九〇四年彼が廿三歳の時陸軍中尉に任官の辭令を受けるや否や官憲の手に捕へられてダマスカスに流された。しかし彼は政治的野心を捨てず地下運動を試みて盛んに活躍し、翌一九〇五年秘密結社ヴアタン（母國黨）を創立した。これを觀破した官憲は更に彼をダマスカスからジャッファに移したが、こゝでも彼は地下運動を續け新たに新黨を組織した。これは後に合同進歩黨に合流した。そこで中央政府は彼の再逮捕を命じたが、彼は逃亡した。一九〇八年の革命運動に味方の合同進歩黨は大勝を博し一八七六年の憲法は再建されて彼の宿志は漸く達せられんとしたが、彼の過激思想は黨領袖の容れるところとならなかつたので、彼は憤然として脫黨した。

これを轉機に彼は政治を斷念して再び軍隊生活に專念し、一九一一年ひそかにトリポリに赴き母國軍に參加してイタリー軍と戰つた。先天的に名將の器を備へてゐた彼は拔群の戰功によつて少佐に昇進し、一九一三年七月第二のバルカン戰爭には一躍してガリポリ半島遠征軍參謀長に任命された。平和克復後彼は大佐に昇進しソフィア駐在武官となり歐洲大戰勃發當時まで在勤した。一九一四年の秋にドイツに加擔して大戰に參加したが、ケマルは參戰尙早論を唱へ、且つ大戰は結局ドイツの敗戰に終るだらうとの意見を抱いてゐたので自ら進んで出征することを希望しなかつた。しか

し母國の參戰を見て彼は決然奮起し、自ら求めてロドストに於けるトルコ軍の司令官となり、一九一五年にはダーダネルス防禦軍司令官に轉じた。時當ダーダネルスは英國海軍の猛擊に會つて正に陷落の危機に直面してゐたのであるが、ケルマが司令官となるやトルコ軍は俄然勢力を盛り返し英軍を散々手古摺らせた。

英軍最後の攻擊中ケマルは敵彈の破片を胸に受けたが、彼が偶然に腕をあげた瞬間破片は腕時計に當つたので奇蹟的に命拾ひをした。それから彼はコーカサスへ廻されてロシア軍を粉碎して、ビトリスムッシュを奪還した。彼がトルコの最高敬稱パシャの號を受けたのは當時のことである。その後彼はなほも各地に轉戰して盛んに敵を惱ましたのでケマル・パシャの名は聯合軍の間にも名將として喧傳さるゝに至つた。

ケマルは母國を救はんために敢然と劍をとつて參戰したのであるがコンスタンチノープル（現イスタンブール）にあつた時、オットマン政府の存立を喜ばず機會あらば反旗を翻へして革命を成就せしめんとの野望を抱いてゐた。一九一九年オットマン政府が彼を北東アナトリアにある第九旅團の檢閲官に任命するや彼は好機到れりとひそかにほくそ笑んだ。彼の使命は同地方にある反政府的なトルコ軍と和平を結び、彼等の勢力分散を圖るにあつた。彼は政府の命令に服從せず黑海の北

東岸サムサンに上陸するや直ちにトルコの大同團結を目する所謂ケマリスト運動を起し同志を糾合した。コンスタンチノープルの政府は驚いて彼の召還命令を發したが、彼は任地から辭表を郵送したまゝ、一意自己の國家主義運動に邁進した。こゝに至つてトルコはオットマン政府派とアナトリア方面のケマル派とに二分し激烈な國內的鬪爭が始まつた。

一九二〇年三月コンスタンチノープルは聯合軍の手に占領されてオットマン政府の權勢は地に落ちたがケマリスト派は同年四月廿三日アンゴラに新議會を召集しトルコ帝國の政權は事實上ケマルの手に移つた。一九二一年夏希土戰爭が愈々激烈となりトルコ軍が危險に陷るやアンゴラの新議會はケマルをトルコ軍總司令官に任命して卽時を戰線に送つた。ケマル將軍はサカリナの戰に落馬して肋骨を一枚折つたが、これにひるむどころか却て勇氣百倍し、猛擊また猛擊、翌二二年遂にギリシア軍をスミルナから擊退した。戰後アンゴラ議會は彼を元帥に任じ、ガジ（戰勝者）の尊稱を與へてその武勳に報いた。

かくてケマリスト運動は着々成功し一九二三年十月廿九日アンゴラを首都とするトルコ共和國は樹立されケマルは大統領に當選して事實上の獨裁者となつた。これより先き同年夏ケマルは聯合國とローザンヌ條約を締結し、コンスタンチノープル、スミルナ、東スレイス等を回復するとともに

ダーダネルス防備その他に關する彼の要求を聯合國に容れしめた。ケマルはその後一九二七年と三年に引續き大統領に再選し今日に至つたが、その間の目ざましき業績は數限りなくある。これを一々列擧する餘白はないが中でも一九二八年從來一般に使用されてゐたアラビア語を廢し新たにローマ字式アルフアベットを國語に採用した果敢な行爲は彼ならでは出來ぬ偉業であつた。お馴染のケマル・パシヤの名前がケマル・アタチユルクとなつたのは本年一月から實施された新法によるもので、これにより從來名前だけしか持たなかつたトルコ國民は悉く姓を持つことになつた。昨年採用されたトルコ産業五ケ年計劃もケマルの大きな新業績の一つである。巨人ケマルの獨裁下に一糸亂れぬ結束を固めて歐洲本土を睥睨する新興國トルコの姿こそ近代史を飾る一偉觀である。

エチオピアへルイ

三千餘年の歴史を有するエチオピア帝國が今日ほどの危機に臨んだことは先づ無いであらう。何時イタリーと戰端を開かねばならぬかも分らぬといふこの重要期に、エチオピアの外交を一身に引受け、文字通り身心を粉にして活躍してゐるのが、外務大臣ブラテン・ゲタ・ヘルイ・ワルダ・セラッセである。彼は當年六十一歳で、黑い顏に、白髮が殊に眼を惹くが、性格は溫厚で圓滿、人を威壓するに足るだけの潛在力を持つてゐる。生れたのはセウワ州アンコバルの町で、父は僧侶であつた。彼は外遊すること七回に及び、英語は極めて堪能だが、フランス語も流暢とまではいかなくても用事に缺ぐことが無い位は、しやべることが出來る。またエチオピア歴史の權威で、歴史家としても一家を爲し、歴史に關する著書が十五卷に及んでゐるが、目下畢生の事業としてエチオピア大歴史を著述中である。ヘルイ氏は皇帝の信任最も厚く重臣中の重臣であるが、特に外國に對する問題は、ヘルイ氏の進言なれば直ちに採擇される程の

ヘルイ氏

絶對信頼である。ヘルイ氏の外交政策は陰性であつて消極的ではあるが、しかしこれはエチオピアの現狀が生んだ政策であつてその責を彼にばかりきせる譯にはまゐらない。

ヘルイ外相は、昭和六年十一月六日、エチオピア帝國の答禮使節として、わが國に來訪し、七日東京に入るや即日宮中に參內して　天皇陛下に謁見仰付けられ、エチオピア皇帝の御親書並に同國の最高勳章ソロモン大綬章を捧呈し、御前に於てエチオピア語で認めた言上文を捧讀するの光榮に浴し、次いで皇后陛下にエチオピア皇帝から御贈進のシバ大綬章を捧呈した。ヘルイ外相は、この日本訪問の機會に民族的意識に燃える在野の有力者達とも肝膽を照して、相語つたが、彼はエチオピアに歸任するや、自ら筆を執つてエチオピア語で、日本訪問記『大日本』と題する一書を著はし、國立印刷所から、これを刊行して、エチオピア國民に、日本を理解さすための一資料とした。その書中においてヘルイ氏は日本の事情を詳細に傳へ『一般に日本人は非常に向上心に富み、忍耐强く、勇敢で一旦緩急あれば義勇公に奉ずるの念を誰でもが持つてゐる。』と述べ且つ『この日本人の精神と勇氣とを我がエチオピア國民にも見出すことが出來るのは嬉しい。そして我が國民も日本人と同じやうに皇室と祖國とのためには皆死ぬまでも戰ふのだ。』といひ『美はギリシアに、信仰はイスラエルに、堅實はローマに、しかして勇は日本に。』と書いてゐる。

ヘルイ氏は、日本から歸國して以來、非常な親日家となり、將來退官したら、日本研究に沒頭し、再び日本を訪問するとの希望をもつてゐるが、昭和九年十一月一日發の電報は、エジプト旅行中のヘルイ外相がイタリー新聞記者と會見した際『エチオピアは日本に對して棉花その他の耕作地を提供するのみならず、日本の工業並に商業施設をエチオピアに設置することをも許可する方針である。歐洲諸國は、目下我國と東洋の友邦との間に行はれてゐる折衝に氣を採む必要は更にない』と語つたと報じ、彼がいかに親日的であるかといふことを對外的に表現した。

米國（A）ルーズヴエルト

世界の經濟恐慌は米國にニコボンの偉人フランクリン・デラノ・ルーズヴエルト大統領を生んだ。古來の偉人中彼ほどニコボンの人は稀であらう。ムツソリーニや、スターリンや、ヒツトラー氏等の笑顏を見た人は世界中指を屈するほどしかないかも知れないが、澁面のルーズヴエルト大統領を見た人は、また少ないであらう。彼はこの點でも近代に於けるユニークな存在である。

米國では昔から平時には偉人は大統領に選ばれないといはれてゐる。政治學者プライス卿は第一偉人は政治家には稀である。第二、選擧方法が彼等を最高位にまで引きあげない、第三、偉人は平時には絕對に必要でない――との三つの理由をあげてゐる。この見かたは敢て米國に限らないが、ルーズヴエルト大統領はたしかに非常時の產物である。

一九二八年を境として米國のクーリツヂ繁榮は急轉直下的にフーヴア恐慌の時代に轉じ、さすが自信の强い樂天的な米國民もすつかり喪心してしまつた。巨大なるドル文明の殿堂は砂上の樓閣の如く不況の大嵐に根こそぎ崩壞し出した。萬能の神よりも强く崇められたドルに錆が一杯吹き出した。米國民は社會組織の、經濟組織の缺陷に、またデモクラシーの無力に眼がさめた。そして偉大

なる指導者、救世主の出現を渴仰した。ヴイジョンのない米國民は、指導者のない米國は、醉つぱらつて逆立ちをしてゐる社會的ピラミツドのやうであつた。偉人出でよ、英雄出でよ、といふ巨人待望時代が生れた。しかし、その叫びに應ずる答へは『偉人なし』の嘆きであつた。

この嵐のなかに一九三二年の大統領選擧は行はれた。片や共和黨候補前大統領ハーバート・フーヴア、片や民主黨候補前ニューヨーク州知事フランクリン・ルーズヴエルトの對立であつたが、人物から見てどちらも一長一短、大した代り榮えはしまいと一般に豫想されてゐた。たゞ、大統領として未知數のルーズヴエルト氏に相當の興味がかけられてゐただけで、彼がフーヴア氏を壓倒的得票で一蹴して、大統領に當選した後でも『偉人出でたり』などと言ふ米國人は一人もなかつた。しかるに一九三三年三月半身不髓のルーズヴエルト新大統領が息子に援けられて白亞館入りをした瞬間首都ワシントンは暗夜にサーチライトを照らされた如く明るくなつた。彼は先づ新聞記者との會見に前例を破つて驚かした。彼は從來の大統領のやうな嚴重な警戒を解き、まるで舊知の友人に對するが如き碎けた態度で全米から集つた數百人の新

ルーズヴエルト氏

聞記者を引見し、破顔一笑、懐をひろげて質問の矢面に立つた。パブリシティーといふものが如何に政治家の仕事に重要な役目をつとめるかは今更喋々を要しないが、この超デモクラチックな態度は忽ち全米の新聞に報道され、彼は先づ大統領學の第一回試驗に滿點でパスした。不安におびえる米國人に新大統領の明朗性がどう反響したかは言ふまでもなからう。

しかし破產に頻する米國の財界を彼がどうして匡救し得るか、絶望のどん底にあえぐ米國民をどうして光明の世界にひきあげるか、その疑問は誰の頭をも支配した。その裏にはどうせ大したことは出來まいといふ侮蔑的心理さへ多くの人の腦裡に動いてゐた。しかるに彼は大統領就任後ブレイン・トラストを形成して、ニュー・ディールを敢行すべく、疾風迅雷的に諸種の革命的政策を次々に發表、實施に着手した。彼は先づ全國の銀行に閉鎖、休業を命じて、金の輸出を禁じ、間もなく正式に金本位を放棄して世界を驚かした。また臨時議會を召集して諸種の驚倒的法案を提出した。一九三三年三月九日彼が大統領に就任後の五日目に議會は銀行法案を通過して彼に銀行管理權を賦與し、同月十二日には官吏軍人の減俸權を大統領に與ふる法案を通過した。四月一日には彼は大統領令を公布して大戰出征兵の恩給を一ヶ年四億ドル削減した。同時に五億ドルの尨大な失業救濟案を採用した。また三十三億ドルの豫算を含む巨大な公共事業計畫も同時に發表された。五月十二日議

會は農民救濟法案を協贊して政府に農產物の物價引上げ權を賦與し、且つ聯邦準備銀行のクレヂットを三十億ドル擴大して大統領に金ドルの最高五割切下げ權を與へた。最も革命的だと言はれたのは六月議會を通過したN・R・A（產業復興法）であつて、これにより大統領は向ふ二ヶ年間廣汎なる範圍の獨裁權を賦與された。

同年六月十六日議會閉會後大統領はN・R・Aの實施を開始し、ヒュー・ジョンソン將軍をN・R・Aの長官に任命した。N・R・Aは米國各產業の部門に亙つて、勞働時間および賃銀、値段、生產高、並びに勞働條件を取締る權能を大統領に與へたものであつて、ルーズヴェルト大統領の目指す繁榮取り戻しの虎の卷である。その有效期間二年間は反トラスト法の實施を中止された。禁酒法廢止もルーズヴェルト大統領の大きな業績の一つである。

しかるに米國の繁榮の復活はルーズヴェルト大統領の豫言通り來らず、諸政策の實績は遲々としてあがらず、在職一年後ルーズヴェルトの人氣は漸く下火となり始めた。從つてN・R・Aに對する不平不滿は漸次全國に擴がり、米國は再び三年前の不安時代に逆戻りしたかの感がある。しかもN・R・Aは本年五月廿七日米國大審院で無效を宣告され復興途上にかけめぐつてゐたN・R・Aの青鷺は無慘に叩きおとされた。六月十四日米國議會はN・R・Aの九ヶ月延長案を通過して辛

くも助つたが、大統領の權限は極度に制限された骨拔案となつたので華かなりしニュー・ディールは事實上終焉を告げるに至つた。

米國はいまや再び重大なる轉換期に立つてゐる。當初國民の擧國一致的支援を受けたルーズヴエルト大統領の敵は到る所にあらはれてゐる。政敵共和黨は捲土重來を期して既に明年の大統領選擧に備へんと猛運動を開始し、前大統領フーヴア氏も隱遁生活から脫れて運動に加はつてゐる。元來ルーズヴエルト氏の敵であつたウオール街、大企業家、資本家有力分子もN・R・Aの頓挫と大統領の人氣減退を機會に反ルーズヴエルトの鋒鋩を漸次露骨にあらはしつゝある。米國議會のルーズヴエルト氏支持も舊の如くならず、與黨民主黨內の統制さへ意のまゝにならなくなつた。過去二年間中央政府の獨裁權下にあつた各州には州の自治を要求する聲が高くなつた。以上のすべてはルーズヴエルト政府の前途を危ふからしめる暗礁である。ルーズヴエルト自身もこれを知つていまや愼重なる態度をもつて、もつと實際的政策により次の選擧に備へんとしてゐる。

しかしながらあの勇氣と果敢とを以て、米國を破產から救ひあげ、失はれた希望を國民に與へたルーズヴエルトの過去二年の業績は、彼をして偉人の列に加へるに十分である。彼は一個の固定した主義といふものがなく、時に應じ機に處して惜し氣もなく政策を變改する。これは彼の長所であり短所であるが、機を見るに敏なる點では古來稀に見る政治家である。過去二年間の惡戰苦鬪に拘らず彼は依然としてあの明朗さと勇氣と自信とを失はず、『繁榮をとり戻せ』のスローガンに終始せんと言つてゐる。隨つて米國民大部分の人氣と同情はまだ〳〵彼にある。今後一ヶ年こそ實にルーズヴエルト大統領の興廢を決する重大なる期間であらう。

最後にルーズヴエルト大統領の對外政策に一瞥を與へやう。彼は一言にしていへば國際協調主義の信奉者である。元來、故ウイルソン大統領の思想の流れを汲むリベラルで米國の國際聯盟加入を支持してゐたが、この主張は大統領當選前に放棄した。彼は自著『ルツキング・フオアウアード』に於て『國際聯盟は最早や世界平和達成の機關ではなく歐洲各國の政治を論ずる討議場となつた。米國はかゝるものに參加する必要はない』と明瞭に聯盟加入反對を表明した。一昨年ロンドンに國際經濟會議が開かれた時、ルーズヴエルト氏は國際通貨安定協定參加を拒否し、遂に經濟會議失敗の原因を作つた。ジユネーヴに於ても常に歐洲不干涉主義を固持して歐洲の政治工作に加はらず、傳統的モンロー主義を遵奉してゐる。海軍々縮問題に關しても、フーヴアの如く敢て積極的行爲に出でず、寧ろ大海軍主義に傾いてゐる有樣である。リベラルであり、ヒユマニテリアンであり、國際協調主義者であるルーズヴエルトは、一面には國家主義的、ファッショ的傾向を多分にもつてゐ

る。言はゞカメレオン式偉人である。

ルーズヴエルトは日本流に言つて今年五十三歳、一八八二年一月卅日ニューヨーク市ハイドパークに生れた。故大統領セオドル・ルーズヴエルト氏とは從兄弟に當る名門の出である。廿三歳の時ハーヴアード大學を卒業、更にコロムビア大學に進んで法律を研究し、學窓を出でてニューヨーク州で辯護士を開業した。政界に入つたのは彼が廿八歳の一九一〇年で、ニューヨーク州上院議員となつたが、一九一三年卅一歳の時故ウッドロー・ウイルソン大統領に見出されて海軍次官となり、上院議員を辭職した。先天的にスポーツが好きで海に非常な憧れを持つルーズヴエルトは、海軍次官の仕事に身を入れて勉强し、海軍問題に殆んど無智な海相ジョセフアス・ダニエルス氏の女房役として好評嘖々であつた。一九二〇年の大統領選擧にウィルソンの再擧ならず、翌年ハーディング氏が大統領に就任するやルーズヴエルト氏も野に下つた。當時彼は怖るべき半身不隨病に罹り、恐らく政界再起は不可能とさへ言はれた。しかし不撓不屈の精神に燃ゆる彼はヂョージア州の溫泉地ウォーム・スプリングでひたすら靜養につとめ、遂に病魔を征服して、政界に再起し得るだけの健康をとりもどした。彼は今日でも半身殆んど不隨であるが、命とりといはれる大統領の劇務に善く耐え、朗らかな笑を忘れない。一九二九年彼は四十七歳の時ニューヨーク州知事に當選し一九三三

年白堊館に入るまで五年間名知事として謳はれた。彼は幼少の頃から水泳、魚釣り、ヨット、フットボール等を愛したが、現在では白堊館にスイミング・プールを持つて餘暇にはプールにひたり、休暇を利用して屢々海に出でヨット、魚釣りなどを樂んでゐる。

(B) スタンドレー

六十四年前の一八七二年十二月、米國カリフオルニア州ウチアの牧場主スタンドレーの家に、玉のやうな男の兒が出生した。一家の喜びは例へやうもなかつたが、さればとてこの生れ出た子供が幼時から殊更に人眼を惹く程、優れてゐたといふ譯でも無かつた。牧場に生れた子供の常として、朝に馬を友とし、夕に牛に戯れながら、平凡に、健やかに、生長して行つた。人間誰しも物心がつけば自己の行手に就いて希望も抱き、憧憬も描くものである。小スタンドレーが先づ最初に描いた夢は青少年を導く教師となつて、世の中に貢献しやうといふことであつた。彼は綠の牧場に寢ころびながら、教壇の上の颯爽たる自分自身の姿を碧い空の中に描いては獨り北叟笑んでゐた。或時は既にもう教師になつたやうな氣持ちで、牧場の牛に向つて歴史を說き、馬に向つて地理を敎へた。しかし人間の一生といふものは、ホンの一寸した動機或は感激からその運命が左右されるものであ

る。彼が十八歳の時ゆくりなくも、ウチア近くの田舍の掲示板で、アナポリス海軍兵學校の生徒募集の告示を見た。この告示を見た瞬間から彼の運命に大きな變動が齎らされ、從來の希望抱負は一變され萬難を排しても海軍士官になつてやらうと固く決心するに至つた。

『僕を海軍に入れて下さい』

スタンドレー提督

決心を眉宇に現はして嘆願する彼に冷い一瞥を與れた父は『お前は海軍なんかにはいる必要はない。家に居て、牛と馬との世話をしてをればよいのだ。』と答へて、どうしてもスタンドレーの希望を容れては與れなかつた。そこで一策を案じた彼は秘かに受驗の手續きをし、試驗の當日は、景勝の地として知られてゐる近郊のサンタ・ローザへ遊びにやつて呉れとせがんで父親の許しを得、牧場の小牛に打ち跨づて、悠々と廿マイル離れた試驗場に乘り込んだ。斯くて始めは教員を志望してゐた一牧場主の小倅は見事海軍兵學校の試驗にパスしたが、この小倅が後年、米國海軍の狼と謳はれ、全米海軍を背負つて立つ大立物にならうとは、恐らく試驗官と雖も氣付かなかつたであらう。今、全米海軍の輿望と信賴をになひ、その全權を掌

中に握つてゐる米國海軍軍令部長ウィリアム・ハリソン・スタンドレー大將こそは、この名もなき一牧場主の小倅であつたのだ。

米國の海軍軍令部長は、わが國と多少その職責を異にし、作戰用兵は勿論のこと、艦隊の編成、軍事豫算の作成等、海軍に關する一切の事柄を管掌するので、その權限は海相よりも遙かに偉大である。今の米國の野望は、世界第一の海軍を持つことである。この野心のために、米國が如何に總ゆる努力を拂つてゐるかは、ワシントン、ジュネーヴ、ロンドンの軍縮會議に照しても、明白である。米國は右手で世界第一海軍國たる英國の襟首を掴んで後ろに引き戻し、左手をのばして、發達の途上にあつたわが海軍の前進を阻止してゐるのである。斯くの如く他國を牽制しながらも、海軍擴張案を是とするルーズヴェルトが大統領に就任して以來は、世界第一海軍建設主義を露骨に現はし、米國上院の大海軍論者スワンソンを海相に据ゑ、ルーズヴェルト氏が實施したところの產業復興法並にヴィンソン案に依る條約量一杯（百卅餘隻）の建艦計劃を通過せしめるなど、一路その野望達成に向つて邁進してゐるが、このルーズヴェルトに依つて、海軍軍令部長の要職に拔擢されたスタンドレーが、全米海軍を率ゐて目指すところは、やはり世界第一海軍の建設以外には何物も無いのである。スタンドレーは、米國海軍の根本策を確立したプラット大將の寵兒で、セラー

ズ大將とどちらが早く軍令部長のゴールでテープを切るかといふことが、米海軍の興味を呼んでゐたが、その登龍門である合衆國聯合艦隊司令長官の職を經ず、一躍プラット大將の後繼者となつたものであつて、大艦巨砲主義、集中打擊主義を奉じ、政略と戰略の不可分を信條とし『國家及び通商貿易を保持し、本土及び國外に於ける領土の保全を期すべき十分の海軍力を維持する』といふ米國の傳統的海軍政策の遂行を義務と心得、太平洋政策への邁進を劃策してゐる。故にスタンドレーは國防に關する限り、絕對的に御都合主義を排する剛健な性格の持主である。

昨年（昭和九年）の十月卅一日、ロンドンの日本大使館で軍縮豫備交渉の日米會談が行はれた時のことである。日本側は松平、山本兩代表のほか岩下大佐、加藤參事官（現カナダ公使）等が出席し、米國側はデヴィス代表、スタンドレー大將などが出席したが、この時は主として、わが代表山本五十六海軍中將とスタンドレー大將との間に約二時間餘に亘つて軍事上の理論鬪爭が行はれた。この時の問答の一班は確かにスタンドレーの性格を知るよすがの一つとなるものである。

スタンドレー『かつてワシントン會議で五・五・三の比率を承認した日本は、それから今日までの十年間に、世界の事情が、此比率を變更しなければならぬほど變化したと思はれるか。我等はさして變化は無いと信ずる、だから比率は十年前と同じでよいではないか。』

山本『この十年間に大變化があつたればこそ日本は、變更を主張してゐるのである。貴下は航空術の今日の進歩を認めないのか。日本の國情が、十年前と今日とでは、一變してゐることを認めないのか。海軍軍人として、兵器の著しい進歩を、まさか否定は出來まい。』

スタンドレー『それにしても、五・五・三の比率で日本は米國からの攻擊を充分防禦出來ると思ふが、海軍將官たる貴下の意嚮如何？』

山本『日本が均等を要求するのは、實戰に於ける勝敗のみから主張してゐるのではない。同じく一等國たる日米兩國間で、その海軍所有量に優劣のあることは、國民的優劣を示すものとして、わが日本國民の矜持を傷ける。日本は國民的矜持の上からこれを主張するものである。なほ戰術上からいつても、日本が米國と互角の海軍力を所有しても、米國は日本からの攻擊を充分に防ぐことが出來る。若しこの點をお疑ひなら兩國同等の海軍力をもつて、貴下が日本海軍司令長官として、日本艦隊を率ゐて米國を攻めてみてはいかが？　予は日本と同等の海軍力を有する米國海軍の司令長官として、貴下を迎えて立派にその艦隊を擊滅して御覽に入れやう。たとひ均等となつても米國は斷じて、日本を怖れる必要はない』

山本中將がニコニコして答へたのに對し、スタンドレー大將は少しく顏を赧らめながら『御希望

とあらば、予も貴下の米國艦隊を壞滅して御覽に入れる自信がある』と應酬したものであつた。しかしこの討論では流石のスタンドレーも山本中將に一本面をとられた形であるが、彼があくまでも米國の方針である五・五・三の比率を固執せんとするその態度は明白に現はれてゐるではないか。

スタンドレー大將は一八九一年十一月に海軍兵學校に入學し、一八九五年廿四歳で少尉に任官、アジア艦隊乘組を命ぜられて海上勤務のスタートを切つた。比島に暴動のあつた時の話である。暗夜に乘じて敵前上陸を敢行したスタンドレー少尉は、單身、沼澤を徒涉して敵陣深くしのび入り、樹木によぢ登つて敵陣地をスケッチし、これを齎らして本軍の攻擊に便宜を與へ、初陣の功名を樹てた。その後米西戰爭のサンチャゴ封鎖戰にも少尉として出征し、拔群の勳功を現はして、サンプソン提督から大いに認められ、中米の革命騷ぎにも監視に出動したが、歐洲大戰に出征するに及んで、愈々その智謀と豪膽が認められ、少尉に任官の當時は、同年齡で、早く兵學校に入學したものは既に大尉になつてゐたものもあつて、スタートには惠れなかつたが、この頃からは拔擢、拔擢で目覺しい出世振りを示した。それといふのも、上流の子弟の多い米國海軍に在つて、牛馬と共に育つたスタンドレーは社交界などにもあまり出入せず、專ら戰術と、兵士の訓練に沒頭し、華やかな政治論にも無關心で、ただ武人たることを心懸けたからであつた。その四十年に亘る實際的海軍生

活が、今や全米海軍將士の尊敬と信賴をあつめてゐる所以であらう。

一九一九年十一月大佐に進級してからは、一九二六年二月カリフォルニア號艦長となり、翌二七年十一月少將に進んで、索敵部隊巡洋艦隊司令官、三〇年五月軍務局長、同十月中將に進級して索敵部隊司令官となり、三三年七月、大將に進んで軍令部長の要職についたものであるが、その索敵部隊司令官の時、條約型一萬トン巡洋艦の指揮は、實に素晴しい成績であつたといふから近代戰の鬪將としても侮り難い手腕の持主であらう。白髮で一見村夫子然としてゐるが、ユーモアたつぷりの會話は人を魅了するところがある。家庭ではよき父で、一男四女の子福者だが、長男は米海軍水雷學校に學び、長女ベアトリスはこれまた海軍將校に嫁ぎ、一家には極めて海軍色が濃厚である。だが彼自身にも兵學校受驗時代を顧みて述懷するといふ。

『合格は實に意外だつた』

(C) デヴィス

來るべき重大危機に處せんとする海軍々縮會議の豫備會商は昨秋英京ロンドンで華々しく開幕されたが、この豫備會商の大立者となつたのは、かねてジュネーヴを中心に歐洲外交界に縱橫無盡の

活躍をしたノーマン・デヴィスであつた。彼は着英早々英國外相サイモン氏を訪ね、早くも密談を遂げた。陰性的裏面外交こそは彼の最も得意とするところである。彼の登場は直に豫備會商の運命を決定した。背の低い風采すこぶる上らぬ村夫子然たる好々爺たる彼、知らない人なら田舍の銀行家位にしか値踏みはすまい。米國代表部に當てられてゐたクラリッヂス・ホテルには、各國の新聞記者が毎日入れ替り立替り押しかけてデヴィス氏を摑へやうと血眼になつてゐたが彼は、たくみに逃げまわつてその鋭鋒を避けた。たま〳〵廊下でゝも會ふと『イヤ、チョットお茶を飲みに行くんだよ』とコソ〳〵と隱れてしまつた。彼がお茶を飲んでゐるときこそ、實はかれの天禀たる座談的外交が私かにくり擴げられる時なのだ。一杯のお茶をすゝつてゐる間に、世界の新しい外交史を作つて行く恐しい爺さんである。用意周到、どんな場合でも斷じて尻尾を出さない。

デヴィス氏

彼は一八七八年生れ、キューバで銀行や製糖企業をやつてゐたが、故ウイルソン大統領に見出されて一九一九年歐洲へ米國財政委員として派遣されたのが、外交官としての第一歩であつた。この最初の使命に成功すると彼は、世界平和會議、軍縮會議、賠償會議等にはいつも米國委員として派遣され、一九二〇年には大藏次官、翌二一年には國務次官とグン〳〵スピーディーな出世をした。彼は民主黨員でありながら共和黨の信任も厚い、前大統領フーヴァ氏にも重用され無任所大使として歐洲外交界を馳驅し、どんな難問題でも快刀亂麻、見事裁いて行くあたり、デヴィス氏でなければ歐洲の外交界の舞臺が廻らぬとさへ言はれる程、彼の名は世界を震憾した。

最近のかれは外交界より去つて再び轉向の噂もある。がしかし、聲望遍くして、押しが利き、しかも堅實で活動力の絶倫なこの人のやうな人材を、米國は果して輕々しく轉向させるかどうか疑はしい。

(D) ハル

自分の信ずるところは飽くまで主張し、その主張が聞かれなかつたら腕づくでゝも通さうといふ横紙破りの外交を、我等は前米國國務長官スチムソンに見出した。が、そのスチムソンと對蹠的な存在となつてゐるのが現國務長官コーデル・ハルである。彼は十九歳のときから政治の畑に育つたが、主張すべきことは知つてゐても、それが通らないからといつて決して短氣を起したりなどしな

かつた。勿論、失望もしなかつた。何時か一度はきつと通して見せるぞと、どこまでもネバつて歩一歩、必ず自分の主張を實現させようと努めるのである。

過ぐる一九三二年、ロンドンの國際經濟會議における彼の立場は誠に苦しいものがあつた。本國と外國との板挟みとなり、失意のうちに歸國したのである。といふのはハル自身は自由貿易主義の熱心な信者であり、世界の大勢はそれと逆行してゐたからであつた。しかし彼はロンドンの失敗を一昨年のモンテヴイデオで見事に償つた。汎米會議は元々米國が米大洲に號令する機關であつた。ところが、それがいつしかラテン・アメリカの『反米會議』に變質してしまつた。不景氣の米國を背景としてハルがそこに飛び込むのは相當な冒險であつた。彼は『外交』は『政治』であると堅く信じてゐた。選擧のとき有權者を說くやうな彼の行き屆いた態度は果然、ラテン・アメリカ代表者の同情を買つた。それだけでも、どれほど米國を外交的孤立から救つたかわからない。ロンドンでは失敗しても、せめては南北米大陸の自由貿易だけは

ハル氏

實現させ、そして擴大させたい……それがハルの理想、ハルのメソドロジーである。その理想が日米外交にどう響くか？

ハル國務長官は、スチムソンが滿洲問題で對日通牒を發して以來の日米兩國間の暗雲を一掃すべく昨年三月三日、卽ち日米修好條約締結八十周年の意義深き日『平和手段に依り容易に調整し得ないものと看做さるべき問題は存在しないと信ずる』旨、いはゆるハル、廣田の日米親善文書交換によつて日米關係に好轉の曙光を投げかけたのも、彼の國際協調主義が然らしめたものに他ならない。

彼は關稅、國際貿易論の權威である。白髮長身、一見、老大學敎授の面影を偲ばせる。彼の人となりは、勤勉、嚴肅、そして少しの汚塵をも近づけない。政界まれに見る潔癖の士であるといつてよい。本年六十三歲、南部民主黨を代表する有力議員で、將來の大統領候補者と目されてゐる。彼は一八七一年テネシー州の地主の家に產聲を擧げた。カムバード大學卒業後、早くも州政界に乘り出したが、途中、米西戰爭に大尉としてキューバに從軍、一九〇六年下院議員になり、爾來一回の落選を除きずつとそこに席を占め、一九三〇年には上院議員に選ばれた。彼の今日までの議會生活中、特に世に著聞する功績としては、聯邦所得稅法案起草、聯邦不動產及び相續稅法の立案などを

擧げることができる。

上院の前外交委員長ボラー氏はかつて彼を評して次の如く語つた。『彼は有能にして教養の深い紳士だ。外交問題に關しては豐富な知識に富んだ人である』と。そして、記者のインターヴューにも『國會における外交問題の決定に當つても、常に彼は卓越した外交專門家として指導的地位を占めてゐる。』と口を極めてほめた。實際老巧のボラー氏がハルに斯くの如く折紙をつけた事を以て彼の人物識見を覗ふに足るであらう。

外人記者の時局觀

本年三月十六日、ヒットラーの外交的爆彈——陸、海、空、三軍に亘る軍備擴張の大宣言があつた。世界は一齊にアツト驚いた。無理もない。歐洲の國際大憲章、ヴェルサイユ條約第五篇、軍事條項の一方的蹂躙である。これが、やがては、恐るべき大動亂の前奏曲にならないと、誰れが太平樂を並べてゐられやう。戰爭か、平和か——火藥庫のやうな歐洲外交界だ。そこで、東京日日新聞では、東京に駐在する英獨佛露等關係列國の有力な新聞、通信社の特派員に各自、獨特の立場から歐洲問題の批判解剖を乞ひ、五月廿二日から六月五日まで、これを連載した。歐洲の時局を知る上に參考になる點が少くないので、次に之を轉載する。

ドイツよ疑心を去れ
＝理解ある英國の立場＝

ロンドン・タイムス特派員
ニューヨーク・タイムス特派員
ヒユー・バイアス

ヒユー・バイアス氏の明徹なる論旨と健實なる筆致は日本のみならず英、米言論界にすでに定評がある。

多くの觀測者にはヨーロッパは今や第二の大戰に刻々近づきつゝあるかのやうに見える。しかし現在の情勢と一九一四年前の情勢には大きな差がある。一九一四年には各國の國民も指導者も歐洲戰爭の性質とその結果についてはまるで無智であつたが、今日ではみんなその恐ろしさを知つてゐる。英國でも、フランスでも、ドイツでも、イタリーでも、ロシアでも歐洲大戰の慘禍を蒙らなかつた家族は一つもない。現在責任ある政治家で近代戰爭の破滅的であることを認識しないものは一

人もないし、銀行家でも資本家でも戰爭が革命を意味するといふことを知らないものは一人もない。新らしい獨裁政治家達にしても第二の歐洲戰爭が急速に招來する未曾有の大混亂と饑餓の危險を到底無視出來ない。今パリ、ベルリン、ストレーザ、ジュネーヴ、ワルソー、モスクワなどの舞臺にさまざまな外交劇が演ぜられてゐるが、その裏面には至るところ今にも戰爭が起りはせぬかといふ底知れぬ深い不安が一般に漲つてゐる。どこの國の政府でも今度戰爭が起つたら國民が果して劍をとつて立つかどうかまたその國がよく戰爭に耐へ得るかどうか、全く自信が持てない現狀である。どんな向ふ見ずの政治家でも戰爭を招くやうな言行を嚴に愼しまなければならないほど戰爭の危險は大きくまたはつきり分つてゐる。ヨーロッパはいま世界大戰前に優る激烈な軍備競爭にうき身をやつしてゐるがその軍備は他國の襲擊に備へるためよりも寧ろその襲擊を恐れる不安に基いてゐる。この不安からどうにかして遁れようとする足掻きこそ前記の外交劇の裏面にひそむ眞意である。この心理的要素はナポレオンがいつたやうに戰爭の勝敗を屢々決定した測り知るべからざるものゝ一つである。その力は尺度や秤で測定出來ないし、またその存在さへ、前もつて證明出來ない。けれどもわれ〳〵はその見えざる力をはつきり知ることが出來る。ヨーロッパは今また恐ろしい火藥庫となつてゐるが、昨年中その火藥庫に投込まれた二つの爆彈卽ちオーストリア首相ドルフ

ス氏とユーゴ・スラヴィア國王アレキサンダー陛下の暗殺事件は幸ひに爆發せずに濟んだ。ヨーロッパ政局の暗黑は夜明け前の半時の暗黑で、嵐の前の暗黑でないかも知れない。

ヨーロッパ政局今日の危機をもたらした直接原因はドイツ政府數次の行動であるが、これ等はヴエルサイユ條約の誤つた平和に對する反動である。國際聯盟は、國家間の紛爭を平和的手段で解決する一つの世界的議會を實現するであらうといふ希望の上に築かれたのであるが、その希望は幻滅に終つた。今日まで國際聯盟は平和條約の字句を維持するだけの道具として存在して來た。聯盟の建設者はそれが平和條約の缺點を匡正する機關となるだらうと信じてゐた。然るにそれは單に戰勝國のための保管人となつた。平和條約の一方的破棄を非難するのは當然である。なぜならもし條約が無視されるならば、武力に訴へる以外に策を施す餘地がないからである。ヒットラー氏の外交的手段は分別のない兇暴なやり口であつた。それは外交的折衝によつてドイツの軍備平等權要求を支持してゐた英國の政策を兩斷してしまつた。平和を求めるといふヒットラー氏の告白を英國は信用してゐたが、ドイツが條約を犯して英國が本土內に持つものよりも遙に强大な空軍を造りあげてゐたといふ事實が暴露してその信用をも破壞するに至つた。またフランス國民はドイツの新陸軍創設が實現するものと覺悟してゐたもののそれがフランスの維持し得るものよりも、强大な軍力を標準

として造られるといふことをベルリンにおいて發表された數字により發見し非常なショックを受けた。オーストリアをナチス化せんとする策謀は昂じてドルフス首相の暗殺とまで發展したが、これはドイツの軍備平等權要求に對してムッソリーニ氏が表明してゐた同情を跡かたもなく消滅させた。右の陰謀はオーストリア政府の紛碎するところとなつたが、イタリーは陸軍を動員してオーストリア國境に送つた。これはナチスの計畫が成功したなら、當然戰爭となつたであらうといふことを暗示するものである。ソヴイエト・ロシアがヨーロッパ政局の危急に警戒し出した證據は、同國が一貫して攻擊しつゝあつた國際聯盟に加入した事實に見られるが、また赤軍を倍加した點にも明瞭に看取される。これはドイツがウクライナにおいて失つた領地を取り還さんとするヒットラー總統の明白な政策に對する不可避的應酬であつた。『ボルシエヴイズムに戰を宣することによつて、ドイツはヨーロッパの一使命を果しつゝあるのだ』とヒットラー氏はいつた。かれは自著『我が鬪ひ』の中に『砲火と劍によつてドイツは東方擴大の道を切り開かねばならぬ』と書いてゐる。ナチス政府は樹立後僅の間にソヴイエト・ロシアを友國から敵國に變ぜしめ、回復しつゝあつた英國の同情を失ひ、イタリーを遠ざからしめ、フランスをひどく驚愕警戒せしめた。

ヒットラー氏の政策はヨーロッパの現狀維持を守護すべく、英國とロシアを接近せしめた點にお

いて非難されてゐる。ドイツの政策に對し直ちに起つた不可避的反動は全ヨーロッパの共同動作であつた。デンマークは別であつたが、ポーランドはジュネーヴにおけるドイツ問責に參加した。この問責は徒勞であつたし、またドイツの聯盟復歸を期待してゐるのなら、それは常識的ではなかつた。當面の問題は將來ドイツに對するヨーロッパ同盟となるやうなものを形成することによつて、ヨーロッパの平和を保持すべきやといふことである。英國はこれに參加を慫慂されてゐる。英國は一九一四年に、もしドイツが英國の參戰を知つてゐたなら戰爭は起らなかつたであらうと忠告されてゐる。しかし英國の政策はヨーロッパの紛爭の局外に立つことを眼目としてゐるのであるから英國は總ての他の手段が失敗した場合にのみ對獨同盟に加擔するであらう。英國はドイツを包圍する鐵柵を造ることによつてヨーロッパが安全保障を得るとは信じない。それはいくら善く見ても武裝の休戰であり、かつ軍備の重荷を輕減するよりはむしろ加重するであらう。ドイツが仲間入りをしない限り眞の平和はあり得ない。危機の禍根はドイツが――單にナチ・ドイツではない――平和條約を決して眞から受諾したのではなく、それが武力をもつてドイツに押しつけられ、かつドイツに劣等な地位を強ひたといふ事實に存してゐる。サイモン英外相とイーデン國璽尚書のベルリン訪問、さらにイーデン氏のワルソー及びモスクワ訪問はパリやローマやジュネーヴよりも廣大な基

礎の上にヨーロッパ平和の確立を目ざす方針を明示するものである。英國の方針は集團的安全保障である。それに代るものは同盟の復活である。ドイツは東歐安全保障條約案を峻拒したが、集團的方法を拒むかはまだ明かにされてゐない。しかしながらその平和の提議者はそれを排他的結合とすることを欲してゐない。イーデン氏の訪問後モスクワで發表されたコムミュニケは『東歐における安全保障の組織と相互援助條約案はいづれの國の孤立または包圍をも策するものではない』と宣言した。ソヴイエト・ロシアとフランスは英國の武力的援助保障を躊躇したことに對しサイモン外相を攻擊してゐる。ヒットラー總統はマクドナルド首相とサイモン外相がドイツの再軍備を非難したとの理由で兩氏を攻擊してゐる。しかも英國の政策は、若ししつかりと芝居氣なしに遂行されるならば、眞正な平和の種を宿す唯一のものである。英國はドイツの現在の心理狀態は戰敗と屈辱的平和とに結果した當然のものであると考へ、かつドイツの平等權承認は最後的解決に導くものと信じてゐる。問題解決の鍵はヒットラー總統がかれの誤りをさとり、自ら作つた猜疑心を取りのぞく能力如何に多くかゝつてゐる。かれの政策の結果は今日までのところドイツが排擊し、かつ英國が從來決して希望しなかつた對獨包圍の危險を近づけしめるのみであつた。英國の政策は集團的安全保障組織を守り、かつ國際聯盟に生れたその組織を固守する各國と共に侵略への抵抗に大同團結せ

んとするにある。しかし、この政策の自然的歸結はヴエルサイユ條約の壓制的な點は外交々渉により除去し得るといふことの認識である。これはドイツに對して明かにされねばならぬ。

禍根『ヴエルサイユ條約』
＝獨の要求・最小限の安全感＝

D・N・B日本代表　ルドルフ・ワイゼ

D・N・Bは「獨逸電報通信社」の略稱、ドイツの世界的通信社であつたウオルフが、ヒットラー政府の下に半官的通信社となつてかく改稱された。

緊張せるヨーロッパの政局は目下世界政治論議のまん中にわだかまつてゐるが、それが更に政治上並に經濟上における國際關係の改善及び調整の途上における障碍物としてます〳〵重大事となりつゝある。この諸障碍の原因は主としていはゆる『平和條約』なるヴエルサイユ條約が課する諸條件の中に見出されるのであるが、この條約たるや過去の十五年が世界に示して來た如く不和の連續のための條約と呼ぶ方が適切なのである。少くともこの點において、ヴエルサイユ條約の命令ほ

ど多くの不安と動搖と敵意とを生ぜしめた條約が未だかつてないといふことを疑ふものは今日の世界に殆ど存在しないやうだ。かゝる條約を造つて戰敗國に調印を强ひた政治家達は、あのやうに異論のあつた戰爭の責任はドイツのみにあるといふ命題に基き、ひいては法律上の權利を奪ひ國防力を削ぎ、ドイツを經濟的束縛の下におかうとした條約が、決して約束されたやうな『平和と安全と富裕の時代』を創造することは出來ぬといふことをあらかじめ知つておくべきであつた。人類の歷史あつて以來各國民の獨立といふ根本原則がこの『ヴエルサイユ平和機構』においてほどひどく無視されたことはない。も一つ、歐洲ばかりでなく全世界の國民に最も災ひすべく運命づけられた間違ひは、國際聯盟の創立であつた。これは聯盟規約の前文にもいふ如く『國際協力を促進し且各國間の平和安寧を完成』すべく豫定されてゐたが、實際にはこの立派な原則も『國際聯盟』の名も正當であつたとはいはれない。

回顧すれば一九一八年一月八日の會議で、ウイルソン米大統領は『各國の世界的聯合を造り、それに大小の各國の政治的獨立と完全とを相互に保障することを目的とする明かな規定を付與しなければならない』と述べた。しかるにそれにもかゝはらず、國際聯盟は成立のとたんより、國際交誼の仲間からドイツを除いて、ヴエルサイユ條約の命令實行の保障を自分達で引受けたのである。聯

盟の發頭人の一人が大統領であつた米國が、この堂々たる團體の一員となるのを拒絶したことは周圍の事情がかくの如くであつた際、非常に意義のあつたことゝ見做されなければならない。

過去十五年の間、ドイツはヴエルサイユ條約の改訂を獲得するために鬪づて來た。そしてこの十五年間人に知られてゐない苦惱を續けて、この政治上、經濟上、不合理な條約の命令を愼重に實行しようとして來たが、これは結局ドイツにとつてばかりでなく、他の各國にとつても全くの混亂と破滅とを招來する危險を感じさせた。卽ち世界の經濟生活のデリケートな組織は紊亂に陷り、通貨は崩壞し何百萬の失業者が各地に生じた。かくして『經濟』に關する限り、大戰はどの一國乃至は國家のグループにも戰勝者の地位を與へたのでなく等しく戰敗者たらしめたといふ事實がやがて明白となつたのである。しかしまた『政治』においてもヴエルサイユで創造されたシステムは、先ぶれの聲の高かつた『平和と安全との時代』を齎らすどころか、あべこべに聯盟の監視下にむすばれた複雜な諸條約のために、機構がます〳〵膨脹して、歐洲を政治的麻痺に導いた結果、不和と不安と不平衡と恐怖とを齎らしたのである。この期間中ドイツは平和的の手段をもつてそれ自身の存在のために鬪つて來た。卽ちドイツは、これが自滅を意味するにもかゝはらず、ヴエルサイユ條約によつて强ひられた義務を充すことに努力し、もつてその誠意を實證した。なほまた今日に至るまで

實際上の平等はいつも否定されて來たにも拘らず、かつての舊敵國が『安全保障』といふスローガンの下に要求した政策の實現を促進するために着々として努力して來た。卽ち

(一)ドイツはロカルノで西部國境における現狀維持を認めた。(二)他の加入國と同じ權利を許容されないに拘らず國際聯盟に加入した。(三)ケロッグ不戰條約に調印した。(四)ドイツ自身は完全に軍備を撤廢してゐるのに他諸國の政府は軍備撤廢の意嚮さへ見せようとしないが、それでも軍縮會議の討議に參加した。(五)そして獨波條約に例を見る如き不侵略條約の締結によつて隣接諸國と平和的協定に達する用意のあることを明かにした。

のである。事實ドイツは、自國の安全を危ふからしめることなくしては、歐洲の平和を維持し保護することに寄與出來なかつたわけである。この例をあげると

(イ)ドイツは未だに實際に他諸國との平等を許されてゐない。(ロ)舊同盟及び聯合國はヴエルサイユ條約と聯盟規約とに截然と規定された義務にかゝはらず從前の軍備の標準を守らないのみでなくこれを引上げてゐる。(ハ)ドイツはすべての國と獨波條約の如き穩當な不侵略條約を締結する用意があるのに、この用意は實際はドイツの完全な政治的及び軍事的包圍と隔離とを目的とする條約網によつて阻まれてゐる。

ドイツ政府が他諸國がドイツに許さないがしかし國家の存續を守るために必要不可缺となつてゐる事柄を自發的に且自力をもつてやらうと決意したのは、やうやく四大國がその軍備を更に增進することを宣明した結果、前記の包圍より來る軍事的危險が明かになつた時だつたのである。この點に關し列强が、ドイツに對しすでにある程度の再軍備を認めることに同意してゐるといふ言ひ分は、容易に反駁出來る。何故ならこれよりさき列强自身が軍備を增大し、從前の狀態卽ち忍ぶべからざる軍備の不平等を引續いて存在せしめる如き行動に出たことにより、前記の讓步がすでに役立たないものとなつてゐるのだから。

ドイツの要求は簡單明瞭である。卽ち

（一）ドイツはドイツ人民の生活を保護し得ることを欲してをりそのために陸、海、空における防備をのぞむ。（二）隣接各國との不侵略條約、但し戰爭類似の行動により一國に對し一國を助ける如き義務を伴はないものとする。

一方ドイツが欲してゐないのは他國の領土の占領乃至は獲得なのである。前記のドイツの要求を理解し認識するには『ドイツの安全に關するドイツ自身の考へ方は事實正當と認められるか』との問に次の如く答へれば足る。

曰く、ドイツこそ他のどの國よりも安全保障を要求する資格がある。その理由は日本の國民諸君には特に諒解認識しやすいと思ふ。しかるに歐洲列强のことゞくがおなじやうに安全保障要求の聲をあげてゐるために、この問題は絕えず曲解され誤られてゐる。日本の政府と國軍とが全精力を傾けて非常時における國の安全のために用意し、これらの手段が日本の隣接國の强力な軍備、日本の孤立的立場及び空襲に對する弱點などのために必要であることを實證してゐる。それと丁度おなじく、否それ以上にドイツは安全の缺如してゐることを實證し得る。日本は大體隣接國とは陸海とも何百マイル、何千マイルと離れてゐる。しかるにドイツにおいては隣接國との間に距離がない。その上にそれらの隣接國は世界列强中での最强力な軍備をもつてゐる。また日本は優秀な陸海及び空の軍備を自身にもつてゐるに、ドイツの國防力といふものはこれまで極度に微弱であつたのみならずドイツの安全を危からしめる特殊の諸事情さへある。その一部分はドイツの地理的位置に見出さるべく、一部分はドイツを絕對に無防禦たらしめることを目的としたヴエルサイユ條約第五編より來る。この主な點をあげると

ドイツの國境は開放されてゐる、西部國境のすべての要塞は破壞されねばならなかつたし、一方東部國境ではケーニヒスベルグ市だけがある程度までの要塞設備を許されたに過ぎない、これを

鋼鐵で裝備された北は海岸から南はアルプスに至るフランスの要塞と比較されたい、どつちの國が實際安全保障の必要に迫られてゐるかが明かである、しかもドイツの西部國境はすべての要塞を奪はれた上に非武裝地帶として軍隊の保護さへ受けられない、だから全ラインランドはドイツの産業的生命にとつて重要であるのにライン河にかけられた橋梁及びドイツと西方隣接國とを連結する道路を含めていかなる防禦をも完全に奪はれてゐる、この點について變化したものは一つもない、そしてドイツが侵略的意圖を少しもつてゐない證據は十分である。

ドイツには武器にも兵にも補充がない、だから一般的徴兵制度のおかげでいつ何時でも完全に訓練された補充部隊を意のまゝに得られる隣接諸國とは比べものにもならぬくらゐドイツは弱すぎる。同時にドイツのナチ青年團體が即ち軍隊であるといふいひがかりも惡意ある誣言として容易に辯駁出來る。この青年團體は少しも軍事的訓練を受けない。武裝を取らせず武器の使用法も訓はつてゐない。かれ等の目的はたゞ全ドイツ國民のための統制された精神を創造するにある。ドイツで武器を持つものは現役の陸海軍のみである。これはヒットラー總統や國防軍の幹部や、突擊隊の領袖が、異口同音にくり返して言明した事實なのだ。以上の諸點を考慮に入れゝば目下ドイツが著手してゐる國防組織は單に最早やたへ難くなつた不安かつ危險な情勢と、ドイツ並びに全歐の安寧に

對する脅威とを緩和せんとするものにすぎないことが眞に明かとならう。しかも、これはドイツ國民の生活の保障にとつて缺くことの出來ないものゝ最小限に止まる。だから、願はくば世界おしなべて、ドイツの國防政策の眞の目的を諒解し、歐洲の中央心臟部に位する國家が均衡の取れた安全感を得た瞬間が歐洲の平和に對する最大の保障となるであらうことを認められたい。

この明かな正しい平和への欲求をヒットラー總統は屢々くり返された。ドイツ國民への演說においてのみならず、列强へ向つての言葉においても嚴肅に宣明してゐる。最後にドイツの平和への欲求は、根本においてヴエルサイユ條約の命令及びその命令の保障としての國際聯盟、眞に平和な歐洲を造る目的で平等の權利をもつ諸國の協力的聯合に改造さるべき聯盟が、却つて平和を破壞せんとする傾向があるのに對して向けられてゐることを强調したい。ドイツはこれまでも、いつも世界の平和のために出來る限りのことをして來たし、これからもさうである。但しこの際あわてゝドイツの平等權の再建から起り得べき種々のことを議論するのは早きに過ぎよう。平和の目的といふものは感情と宣傳とかゞ後方に追はれて客觀と共通の努力とがそれにとつて代ることが出來れば、その時最も確實に達せられるものなのである。

集團的防禦陣營强化

‖宿命線上のフランス‖

佛アヴアス通信特派員　チー・アルソー

歐洲の危局についてすでに英獨兩國の新聞通信代表が語つたがフランスがいかにこれを見るか、佛國の國家的大通信社アヴアス東京特派員アルソー氏に訊く。

局外にある觀測者の誰に限らず、關係諸國の輿論と國策を決定する心理的要素を知らずに歐洲問題を理解せんとすることは殆ど不可能である。これ等の要素を十分考慮に入れない者は數年前の日支紛爭事件に關し明かにその觀測を誤つた多くのヨーロッパ人と同樣歐洲の時局を判斷する上に不可避的誤謬を犯すであらう。事實上ドイツにおける事態の發展に對するフランス國民の心理的反動は支那における時局の動向に對する日本國民の反動と一種の興味ある類似性を持つといへないこ

とはない。無論私は佛獨問題と日支問題はその性質を全然異にしてゐると考へるし、また生活力が旺盛で寧ろ組織過大のために過ちをやつてゐるドイツの現狀と、生活力の衰へた無政府狀態の支那を比較する意思は毛頭ない。にも拘らず一般輿論の反動とその輿論に對して外交家や政治家が起す反應作用においては日佛間に顯著な類似性のあることは事實である。

ドイツは支那と全く同じ方法で外面だけを漫然と見て皮相な觀測を下す直接關係のない人達の本能的同情をひいてゐる。ドイツは歐洲大戰で聯合軍に敗れてから長年にわたり虐げられた國だ、軍縮で弱められた國だ、峻嚴苛酷な條約で人間並の生活手段を奪はれた國だ、そして富めば富むほど因業でドイツを永久にその覇權下に屈從せしむるために强大な軍備を維持せんと謀つた無慈悲な征服者に對する巨額の賠償金支拂で滅された國だと巧に宣傳した。しかしながらドイツの支拂つた賠償金はドイツが借款の形式で、或は後に無價値となつたマークの賣却金として海外から得た金額のほんの一少部分に相當するに過ぎないこと、また賠償金を支拂つたに拘らずドイツは市政と工場の改善及び絶えず外國からの軍需品購入に巨額の金を濫費ししかも一方で必需軍需品の輸入に充てる資金さへないと伴つた事實、更に最近まで全く存在しないといはれてゐたドイツの空軍がすでに英國の空軍と同樣に强大なものだと正式に發表された事實等を想起すれば世界の輿論が假りに弱國と

され被壓國とされてゐたドイツへの本能的、人道主義的同情に迷はされたのだとフランスが如何に深く感じてゐるかを誰でも理解するであらう。事實ドイツは賠償金で破滅したのでもなければ、自ら吹聽するやうに武裝を解除されたのでもないことを自ら證明してしまつたのであつて、フランスは日本が隣國支那を見ると同樣に事實を僞り巧妙な宣傳を用ひて世界の輿論を左右する狡獪極まる國を相手としてゐるのだとはつきり感ぜざるを得ないのである。日本と同じくフランスは本能的に外面的現象を信用しないのである。なぜならフランスは事物の眞相を陰蔽せんとする詭計を深く意識してゐるからである。

ドイツは支那の如く、他國民または他國政府の支持を得るために如何に外國の同情を利用すべきかを知つてゐた。またドイツは支那と同じく他の烈强を相離反さすやうな政策を絶えずとつて來た。一例をあげると、ドイツは從來いろ／＼と方向轉換をやつたが今日では英國とポーランドを糾合して共にソヴィエト・ロシアに當らしめんと努力し、ドイツは如何なる場合にもソヴィエト・ロシアと手を握らぬと宣言してゐる。しかしながら、ドイツが多年このソヴィエト・ロシアと提携してポーランドと英國に對抗し、當時の國粹ドイツ人が『神よ英國を罰したまへ』と相和して叫んだ事實を記憶しない者はあるまい。フランスは、丁度日本人が支那の傳統的外交に飽き／＼してゐる

如く、ドイツの曲りくねつた矛盾極まる外交にたへ切れなくなつてゐる。だから今のフランスはドイツ政府の一擧手一投足に先天的な疑ひを持つてゐる。

もし日本が支那との折衝において逃げ廻る鰻を捕へんとする時のセンセーションに似たものを經驗したとすればフランスはドイツが支那と同樣、義務を逃れんとすることに實に巧だといふことを高價な犧牲を拂つて學んでゐる。從來日本が支那の約束を決して信用し得なかつた如くフランスはドイツが約束を決して守らないといふ實驗上の教訓を信ずるのである。一九一四年におけるベルギー中立の侵犯と這般のヴェルサイユ條約軍事條項の破棄は不幸にもこの確信を永久にフランス國民の胸底深く植ゑつけんとしてゐる。もう一つ日本とフランスに共通だと思はれるものは、ドイツは支那の如く相手が何か讓歩したり友誼的な提議をすると相手が軟化したのだと早合點しすぐそれに乘じてさらに過大な要求をするといふ事實である。この要求の洪水がいつ停止するだらうか。それをフランスは日本よりも一層深く憂慮してゐる。なぜなら、ドイツは支那と違つてドイツを拘束する桎梏を叩き切らんとする努力においては非常に組織的で首尾一貫してゐるからである。かういふ狀態の下にフランスは讓歩するのが誤りだらうか、また採るべき安全なたゞ一つの政策＝强硬政策＝がないだらうかと自問してゐる。手短にいへば、フランスは日本の立場と同樣に瓢簞鯰のやうな

狡猾な相手の誠意を最も深く疑ふのである。この疑惑はすでに先天的となるまでに昂じ佛獨關係に影響してゐる。しかしフランスは日本が支那の指導者の約束に信頼せんとするよりも遙に多くドイツ政府當局者の宣言と誓約の眞實性に信頼し得ることを熱望してゐる。つまり日本は必要に應じ比較的弱くて距離のある支那との協定なしに行けるが、フランスにはドイツを友國とすべきか或は敵國とすべきかが絶對に重要な先決問題だからである。フランスは隣國ドイツと協定を結ぶか或はドイツと永久に戰はなければならぬといふ怖ろしい宿命に身を任せるかの、いづれかを決定しなければならぬのである。

以上述べたやうに日本とフランスにおける輿論の反動には一般的な類似性があるから日本の對支政策とフランスの對獨政策が屢々類似的變動を受けたことはむしろ當然である。フランスは日本と同樣隣國との恒久的理解と眞摯な協力をゴールとして不斷の努力をしてゐるが、すでに述べたやうな心理的變化があつたために、その政策は時の情勢に應じて強硬から妥協へ、妥協から強硬へといつた風に變動して來た。フランスではボアンカレ氏の強硬政策に次いでブリアン氏が協調的な政策をとつたが、日本では田中內閣の積極政策の後に幣原外相の消極政策がこれに代つた。ストレーゼマン氏がその回顧錄に告白せる如く佛獨和解を目的とするブリアン氏との交渉においてストレーゼマ

ン氏の誠意が薄かつたことはドイツの祕密裡の再軍備とともに今やフランス國民の輿論をブリアン氏の和協政策から離反せしめてしまつた。それと同樣にしばしばくり返された支那の挑戰的行爲は遂に幣原外交を沒落せしむるに至つた。三月十六日のドイツの再軍備宣言は日本とフランスの政策に及ぼしたそれ〴〵の影響においては、一九三一年九月の奉天事變に酷似してゐるといへよう。フランスの反響は日本ほどに猛烈でなかつたかも知れないが、それは或人達の想像するやうにフランス側の決意が足りなかつたためでは決してない。フランスに起つた印象は實に強く深かつた。フランス側の意見が一致しなかつたといはれてゐるが、それは廣田外相の方針と軍部の意見が違つてゐるといふやうなものである。つまり根本點においてはフランスと日本は完全に一致してゐるからである。

ラヴアル外相の現在の外交的活動は一九三二年における日本政府の行動と同樣、斷乎たる性質を帶びてゐる。さらに兩者の類似性を研究するとラヴアル、廣田兩氏の見解には、はつきりした共通性があることに氣づくであらう。つまり兩者とも强硬と和協をうまくバランスした政策をとつて一方はドイツと、他方は支那とそれ〴〵諒解に達しようとの共通の理想に向つて進んでゐるのである。ドイツの要求をひとつ〳〵取りあげて、それに對するフランスの態度を說明せんとすること

は無用である。これはすでに盛んに論議せられて來たし、かつ佛獨兩國側で行はれた議論に價値がないではない。筆者の信ずるところでは兩國の見解の相違はドイツの要求そのものが指示するよりも遙に深刻である。なぜならそれは根本的に心理的の衝突であり葛藤だからである。

フランスの行つた讓歩と比例して年々殖えて來たドイツの要求はヒットラー政府により最近新たに闡明された。ヒットラー政府のいふところは次の如く要約出來る。

われ／＼は滅ぼされた。わが國民は外國に商品を賣つて生存に缺くべからざる原料品を手に入れることが出來ないからいまや極度の窮狀にある。われ／＼はこの狀態ではもはや生きて行けない。ヴエルサイユ條約は賠償金の重壓でわれ／＼を滅ぼし、かつ植民地を奪つてわれ／＼を狹隘な地域に押し込めた。われ／＼の窮狀の責任はヴエルサイユ條約にある。われ／＼は生活力の旺盛な國民だから現在のやうな劣等な地位にいつまでも甘んずることは斷じてないであらう。われわれは膨脹しなくてはならぬ。必要に應じては武力に訴へてもこれを敢行するであらう。われ／＼は戰爭を欲しないのみならず戰ふ意思があつても戰を宣する能力がない。生活に絶對必要なものを與へよ、さうすればわれ／＼は何者をも脅かさぬであらう。われ／＼はフランスに對し現在以上の要求を持たず、平等の立場で協定を結ぶ用意がある。しかしながらドイツの舊植民地を返

還しドイツ民族の運命に從つて南方と東方に向つて膨脹せしめよ。

しかしフランスはドイツの實際の要求を考慮する前にその要求の基礎となつてゐる理論の眞實性を容易に信じ得ない。ドイツの窮狀がヴエルサイユ條約に原因してゐるか、また同條件の課した重荷の下にドイツが生きて行けぬかをフランスは大いに疑ふものである。ドイツのいはゆる經濟的危急はドイツ自らが招いたものである。大戰前植民地を持ち繁榮してゐたドイツは今日と殆どおなじやうな要求をしてゐた。その要求はドイツをして或るフランスの植民地と領土を併合することが經濟的必須事だといふ確信をもつて聯合國と戰はしめるに至つた。だからフランスはドイツの經濟的困窮は寧ろ大戰後無分別さで行つた經濟發展策の結果だと考へざるを得ないのである。またドイツは絶えず幻想を描いて生きて來た結果いま不可避的に苦しんでゐるのだと考へる。

フランス國民はドイツの現在の窮狀はヴエルサイユ條約の結果ではなくて機械力が人力に取つて代つた結果の世界共通的病弊に基くのだと考へてゐる。ドイツが米國の如く今世界中で最も苦悶してゐるのは機械力の使用が他のいづれの國よりも最も進歩してゐたためである。フランスはドイツの主張を完全に容れることがその種々なる社會問題を含む經濟狀態を改良するゆゑんであるとは考へてゐない。フランス國民の大部分はドイツの要求が將來どこまで擴大するかをはつきり知つて

ゐたなら今日の要求の大部分に關してドイツに滿足を與へる用意を持つてゐる。しかしいまのところフランス國民がどんなことをしてもドイツは決して滿足せず、結局は武力によつてゞも要求を更に多く貪り取らんとするのではないかと考へてゐる。

實際佛獨の爭鬪はドイツが爆彈主義の前に既存條約も何もなく萬物皆慴伏して覇權はわれに來るものと信じ、結局武力を伴はねばならぬ一方的行動をとらんと常に意圖してゐるところに最も重大な原因がある。かゝるドイツ人の心理に制限がないのでフランスはドイツとの武力衝突を避ける唯一の途はその制限にありと信じてゐる。フランスはドイツ牽制策を發見せんとかたく決心してゐる。これは國際關係を左の二つの根本原則に基礎づけることによつて得られるとフランスは信ずる。

即ち

(一)列國の集團的行動による嚴格な罰則を設けて何國といへども如何なる條約をも一方的に廢棄するを許さぬこと。(二)聯盟規約による條項と一致する平和手段によるならば如何なる締約國といへども條約改訂を要求することが出來る。

フランスは武力に訴へずにこの原則をドイツに受諾せしめ得るであらうか、私の考へでは必ず出來ると思ふ。ドイツは少くとも當分の間、國民的自殺行爲にも等しき戰爭をはじめることはないで

あらう。一方フランスとしても今ならば、ドイツに勝つ自信があるが勝つても結局破滅以外の何物をも得ないことを承知してゐる。それ故フランスは武力戰爭を極力避けて專ら外交的努力によつてドイツの好戰的精神を制しようとあらゆる努力をするであらう。フランスは武力と同樣或はそれ以上の效果ある外交手段によつてその目的の達成を期してゐる。

日本では、いま獨佛戰爭が勃發すればドイツに有利であると考へてゐるやうであるが事實はしからず、今年よりも來年は餘計に勝味が薄い、ドイツは武器製造に懸命になつてゐるけれども、軍備に熱中してゐるのはドイツ一國だけではない、隣國みな武器製造を行つてゐるのであるから結局ドイツ一國が苦しむ結果となりドイツ自身の危險が愈々增すばかりである。更にまたドイツの軍備と並行して將來のドイツの侵略に備へる歐洲の集團的防禦機構は日に日に强まり完成の域に近づきつつある。きのふはロンドン協定、ローマ協約が現れ、けふは佛露及び露チェッコ相互援助條約が實現するといふ工合だ。あすはなほダニューブ諸國協約が出來上るであらう。ポーランドも動搖しドイツからやゝ遠ざかりつゝあるかのやうである。

英國は歐洲大陸の紛爭には捲きこまれまいと用心してはゐるが、いやでも應でも居中調停政策から一歩一歩退却してフランス側に傾きつゝある。それといふのもドイツの爆彈主義政策が大陸諸國

同様英國にとつても危險であるからにほかならぬ。こんな狀態だから英國の指導者の多くは集團的行動により第二の歐洲戰爭勃發を豫防するのが最も安全な手段であつて、一國だけが豫防策のイニシアティヴを取ることは頗る危險だと確信してゐるやうである。

三月十六日のドイツの爆彈宣言はかくてフランスが大戰終了以來企圖して果さなかつた集團的安全保障組織の實現を次第に成就せしめる決定的要因たるを實證した。この組織はドイツが考へてゐるやうなドイツ包圍策ではなくて、侵略政策を取る如何なる國をも包圍する策である。もしフランスといへども隣國の安全を脅かせば忽ち列國の包圍を見るであらう。かゝる强力な平和工作が歐洲に著手されてドイツが武力や、武力を恃む一方的行動によつて野心を貫徹させることは出來ないと悟り平和擁護者の列に加はることを望んでやまない。ドイツが集團的安全保障に參加すれば歐洲政局の不安は著しく薄らぎドイツの理想實現にもつと有利な條件を生むであらう。列國はかくてドイツの脅威さへ失せれば軍備均等權その他の要求にもつと容易すく應ずるに相違ない。何國といへども進化の自然法則に合致する他國民の發展を妨げるものはない。フランスとても決してドイツの復興を阻害する意思はない。たゞドイツが平和的手段を選んでほしいと思ふだけで、いまはそれをドイツ國民の胸底に印象すれば足りるのである。世界はいま革新の眞只中にあるが、その結果は

各國民の經濟思想に重大なる變化を與へるであらう。この變化から生ずる新思想は國際紛爭の原因を著しく除去すると思はれる。かくして、歐洲にとつては第二大戰の危機を永久的でなくとも、少くとも數世紀間避け得るやうに、せめてこゝ數年間だけでも敵對行爲の發生を防止し得れば十分である。

大國協調して指導せよ

＝伊の『現實的平和愛好心』＝

イタリー、ステファニ社代表　ドメニコ・バルトリ

南歐の一角に覇權を唱へ歐洲政局の安定に不可缺の存在をなすダイナミックなファシスト・イタリーの意圖と抱負は如何？　この問題を提げてイタリー通信界の王者ステファニの極東代表、バルトリ氏（上海駐在東京兼務）は本社の連載し來つた時局展望の論陣に加はり以下の一文を寄せた、ファシスト一流の論旨に現れる筆者のイタリー魂はナチ・ドイツに漲る國民精神と興味ある對象をなし、歐洲の危局打診への貴重な一指針である。

歐洲の現政局がまれに見る危機に直面してゐる折柄イタリー外交政策の基本的立場に關し東京日日紙上に論述する機會を與へられ誠に欣快とするものである。イタリーの外交政策は新しい國家的

人格卽ちファシスト・イタリーの成立とその成立過程を考慮に入れなくては十分に說明出來ない。一國の外交政策はその國の特殊な地理的立場や主要な經濟的必要といつたやうな種々な要因によつて決定されるものであるが、どちらかといへばその國內政策により左右される。いやむしろそれは國內政策の反映であり、また發展である場合が多い。事實一九二二年來イタリーの國家的、社會的改造は單に國內的の性質を帶びたものではなく歐洲と世界の政治に新しい要因＝偉大な强力な不拔の國家＝を生んだ事實である。ファシスト・イタリーはその國內政策に新生命を注ぎ込んだ原理的主義主張に鑑み、その弱點と謬想を容易に暴露する西歐デモクラシーの平和主義的理論に贊成することが出來ない。しかし平和主義者でないといふことは平和愛好者でないといふ意味にはならない。最も非現實的幻想を追うて、自ら唱道する平和を破壞する平和主義者ほど危險な人物はない。米國大統領故ウィルソン氏の例はその善い教訓である。世界を反目鬪爭から救ひ平和を保持せんとするすべての理想は、誤れるイデイオロギーをことごとく淸算して眞摯な現實主義によつてこそはじめて實現し得るものである。

ムツソリーニ伊首相は世界の歷史上に果した戰爭の機能を常に强調し、敎育的及び理論的立場からあらゆる平和主義的イデイオロギーに反對してゐる。これは表面、極めてパラドクシカルに見え

るが、しかもムッソリーニ首相ほど歐洲の平和に貢献した者はない。イタリーは平和主義者でなくしかも平和を愛してゐるのである。われ〳〵イタリー國民の傳統的な現實主義的眞意はわれ〳〵をして必然的にイデイオロギーを排擊し、事實の實際的評價にあくまで固執せしめるのである。故にイタリーは他の西歐諸國が一致して應諾すれば軍備を最低水準にまで縮小する用意を持つてゐるが現在のところでは適當な軍備によつて平和を保證せんと意圖してゐるのである。

過去十三年にわたるファシストの教育、約七十萬の人命を犧牲とした大戰勝の記憶、國民の生活行動に永續性と强靱性を注ぎ込む指導者（ムッソリーニ氏）これ等はいづれもイタリーの將來に對してわれ〳〵に希望と確信を與へる要素である。昨年夏オーストリアの國威と歐洲の均衡が脅かされ、ドルフス首相が兇漢の手に斃れた時、イタリーは直ちに國境に兵を動かし、オーストリア共和國の獨立を飽くまで擁護せんとする決意を明かにした。全歐洲はムッソリーニ首相の果敢な適宜の行動がオーストリアの獨立と歐洲の平和を救つたことを認識した。これは以上に述べた點、卽ちイタリーの平和愛好心は實行に基調を置き先入主的なイデイオロギーに立脚してゐないことの積極的證明である。

オーストリア問題を十分理解するには根底から詳細に研究を遂げる必要がある。しかし、それは

別としてイタリーはオーストリアの獨立自治が歐洲政局の安定に缺くべからざる要素だとの見解を抱いてゐると一言すれば足りるのである。オーストリアはプロシア主義に支配されるドイツの文明とは全く別個な文明を持つ國である。その教養、藝術、宗教等もドイツとは違つた特質を持つてゐる。オーストリア人がドイツ語を國語としてゐるといふ事實は何等の決定的な政治的意義を持たない。スイスではドイツ語が廣く使はれてゐるが、スイス人はオーストリア人と同樣に自國の獨立を懸命に守つてゐる。歐洲史の皮相的な知識しか持たない者でも今日のオーストリアはオーストリア・ハンガリー帝國の一部であつた時でさへスラヴとバルカンに面した地方で自治的機能を持つてゐた事實を容易に知ることが出來る。中央ヨーロッパの政治地圖は間違つて塗替へられたのであるが、これは平和條約の締結に當つて大勢を支配したデモクラシーの謬想に基因してゐるのであるけれどもオーストリアの獨立を脅かすことによつて現存の誤謬は匡正されるものではなく寧ろ事態を惡化せしめ、すでに危機に瀕する歐洲の一角に新らしい危險の種を蒔くに等しいことは極めて明かである。

日本の讀者はもつと最近に起つた歐洲の事變についてイタリー人である私の意見を求められてゐると思ふが、私は七ケ月前歐洲を去つたので詳しいことは直接知らない。しかし、イタリーの政策

は今日も從來とは變らない。ドイツの再軍備は餘りに疾風迅雷的に實現したので、まさかそんなことはあるまいと平和の夢を見てゐた人達をすつかり幻滅させてしまつた。ストレーザ會議直後イタリー最大新聞の一つであるミラノ市のコリエル・デラ・セラ紙は次の如く論じた『もし英國とフランスが事前にムツソリーニ氏の提議に應じドイツに公平な軍備擴張を許してゐたならドイツ今日の兵力は現存または今後の兵力の三分二以下位にしか達しなかつたであらう。』

イタリーは條約を恒久的なものとは考へず、その改訂を許すべしとの見解を持ち從來軍備の漸次的縮小運動の先導に立つて來たけれども、イタリーは條約の一方的破棄または侵犯を認容することは出來ないから、かゝる行爲には斷じて反對である。條約中の暫定的な且つ複雜した條項の改訂を討議交渉するには込み合つた會議場から離れた他の場所を選ぶ方が適當であらう。ムツソリーニ首相は全歐諸國共同工作の可能性を信じ、この見地から英、佛、伊、獨を含む四國條約案を提議し、且餘りに多くの缺陷を持つ國際聯盟規約改訂の機會を作らんとした。全歐共同工作は現實的基礎の上に築かるべきものであつて主として大國間の共同工作でなければならぬ。これ等の列强は他國にその意思を强ひる希望も能力も持つものではないが、小國よりも利害關係が大きく責任も重いので共同工作運用の指導的地位に立つべきである。しかして純然たる局地的および地方的利害關係は第

一義的に取扱はなくてもいいのである。ストレーザ會議においてムツソリーニ氏はその偉大なる國際的權威を發揮して大成功を收め大國間における直接理解の可能性と有效性は立派に試驗濟となつた。しかし最善の結果を得るためには關係諸國全體が融和協調するを必要とする。

平和の爲めの唯一つの手段

＝時宜に適した露國の提案＝

露・電報通信社代表　クドリヤフツエフ

變つた存在として歐洲の一角に巨軀を横へてゐるソヴイエト聯邦の動向はあらゆる角度から常に問題を提供する、ヒットラーの投げた爆彈宣言の當の目標となつて不安な歐洲政局の渦中に躍動するソヴイエト聯邦ははたして今日の情勢をどう觀るか、英、獨、佛、伊等各國特派員の筆陣についてソヴイエト聯邦電報通信社（タッス）東京駐在員ウ・エル・クドリヤフツエフ氏が立つた

一般的兵役義務の實施と精巧な近代技術で武裝された强力な軍隊の創設に關する一九三五年三月十六日のヒットラー宣言はヴエルサイユ條約に關聯した國家ばかりでなく遙廣範圍に亙り反響

した事件であつた。ドイツのこの一方的行爲によりヴエルサイユ條約の軍事條項は滅茶々々になつてしまつた、經濟的に復興しつゝドイツが新しい戰爭に對し公々然と準備してゐることを國際政局今日の話題としたのは矢張りドイツ主宰者のこの宣言である。平和に對するかくの如き挑戰は決してただ一九一四―一八年の世界戰爭における勝利者即ちヴエルサイユ條約の創作者達に反對せんためになされたのではない。現ドイツの支配權を握るナチス幹部再三の聲明を見てもかれ等の常に實行してゐる政策が單なる復讐からでなく、他國の領土征服及び多數國家の獨立破壞にあることは明瞭である。即ちこの種征服計畫、新領土の軍事占領への努力がバネとなつてこゝ數年間新侵略戰に對する公然たる準備をひたかくしにしてゐたドイツ外交の表面に浮びあがらせたのである。ナチス指導者達は三月十六日以前の行動においても度々繰返したが英、佛との會談において軍備平等を要求するのにドイツを卑下するヴエルサイユ條約の『不公正』を口實にした。

そしてこれを國民大衆に對する國粹宣傳の目標とし且又當時すでに三月十六日に備ふる準備工作の動機として利用した。しかしながら戰後の歐洲にヴエルサイユ條約によつて生れた制度が漸次衰腐したに拘らず歷史的公正はナチス指導者をしてドイツ自身創作者となる他の『平和』條約を想起させてゐる。いま一九一八年のヴエルサイユ條約を見るにその條約の內容はあらゆる手段をもつて

世界戰爭における戰勝者達の『不公正』に對する口實のあらゆる僞飾を暴露し、しかして現在のドイツが武裝を完成して達成せんとする『公正なる平和』條約に先手をうつてゐる、ドイツの指導者はあたかもドイツの存在を脅かすが如き一般的軍擴を口實として强力軍隊の創設を第二『立證』のモーチヴとしてゐる全般的乃至は部分的軍備制限に關するソヴィエト聯邦の提案が列國から忌避され、高度の軍擴競爭に進んだことによつて自然、ドイツは易々公然と軍備を進め、ナチス幹部はこれによつて或る程度まで國內に適宜な情勢及び雰圍氣を釀成することが出來る新しいモーチヴを把握した。しかしながらこのモーチヴは卽ちナチス指導者自身のあけすけの聲明であつた。これ等の聲明はいづれかの國家がドイツの存在を脅かすのでなくドイツ自身が領土的占領をもつてヨーロッパの諸國を脅かしてゐるのだといふ不易の事實を物語つてゐる。ドイツの軍備機具の基礎的なバネは何かを知るにはヒットラーの著『我が闘ひ』の一節を引用すれば足りる、卽ちヒットラーは次の如くいつてゐる『しかし、われ〳〵が今ヨーロッパにおける新領土について語るなら、まづロシア及びその支配下にある邊疆の國家であるといへる、これが運命である。』――ウクライナ占領のかくの如き露骨な計畫についてはドイツ外交政策指導者の一人であるローゼンベルグ氏のしばしばの言論で明瞭になつてゐる。しかしてソヴィエト聯邦人民委員會議長モロトフ氏が一九三五年一

月廿八日のソヴィエト大會壇上からドイツの指導者に對し上記ヒットラーの宣言は有效なりやとの質問をしたが現在まで何等の回答に接しなかつた。これは一體何を意味するか、いふまでもなくソヴィエト聯邦に關する以上、征服計畫は有效であり、軍備はこれが實現のため起されたことを意味するものである。しかしナチスはザール問題の解決によつて今やフランスとの問題は解消し、したがつてドイツの軍備はライン沿岸の國々を脅かさぬといつてゐる。が、このモーチヴはヨーロッパ東部への侵出の第一歩を容易にすべく西部ヨーロッパ諸國の注意を疎んじさせるためにドイツ外交指導者が眞の計畫をカムフラーヂしてゐるに過ぎぬ。ザール人民投票の第二日目にドイツの指導者が『ザールの運命はオーストリアを待つ』といつたのは世間周知であるが、これはドイツのオーストリア併合計畫がなほ有效であることを立證するものである。オーストリアがバルカンへの楔となつてゐることは明々白々なこと、そしてバルカンの農業國家はずつと以前からドイツ重工業生產品の市場としてナチスの計畫中に數へられてゐた。バルカン半島におけるフランス、イタリーの利害關係が如何なるものであるかに想到するなら公然たるドイツのバルカン進出路を扼してゐるオーストリアをドイツが併合せんとすることがいかにフランス、イタリーに大打擊を與へるか明白である。

また一九一四年のベルギー同様ドイツ軍隊のフランス南部進出を容易にするためスイスにおけるナチスが如何に執拗な工作をしてゐるかは周知のことである。メーメル、リスアニア、ダンチツヒその他のナチスが將來これ等領土の軍事占領を容易にするために種々の工作をしてゐることは繰返して説明するまでもあるまい。かくの如くいづれを見てもドイツ指導者の征服計畫はヨーロッパ東部に局限されぬのみか、何等の除外なくヨーロッパの全國家に關係をもつてゐることは明かでこれが爲三月十六日のドイツの行動は領土の平和的存在と完全に對し直接の脅威となつてゐる。それゆゑに宛もドイツを脅威する如くいふ侵略國ドイツ指導者のあらゆる言動は事實上征服準備の煙幕となつてゐる。そしてドイツは世界戰爭の經驗で適宜の侵略計畫及びその實施を何處へそして何によつて行ふか百も承知してゐるのでこの煙幕をヨーロッパ諸國のみでなく先づドイツ民衆自身の注意をそぐために利用してゐるのである。

かくの如きドイツの計畫及び政治的、經濟的利害關係が世界のいづれの國家にも關係をもつやうにしかく國際化した以上個々の戰爭が不可能なことは明瞭だ。或る席上ソヴィエト聯邦外相リトノヴィフ氏は『世界は不可分である』と述べた。ヨーロッパ東部に戰爭の閃があれば必ず直ちに西方に移動する、ヨーロッパに戰爭の火がつけば必ず全世界に飛火する、それゆゑにソヴィエト

聯邦は確固不撓もつて平和擁護の集團的鬪爭案を定めた。これによつてはじめて現在新世界戰爭の根源となつてゐる國家に反擊を與へることが出來る。最近のヒットラー宣言は事實上何等の變哲もなくドイツ指導者の上述の計畫と比べ何等の新味もなかつたが同時に從來の侵略的聲明を何等變更してゐない。最近のヒットラー宣言が表面平和的なひゞきを與へてゐるのは、もう一度列强の注意をそらし、對獨關係において、より强固な地位を英國に與へないやうにし、かつまた現在のドイツの外交政策から生れる平和を脅かす危險に對し列强が單一戰線をはらぬやうにすることを根本目的としてゐるがためである。事實ドイツの戰爭準備を助成する最も危險なのは平和と戰爭の間にあつて狐疑逡巡することである。この逡巡、それはまづ何よりもよく英國の態度が如實にこれを示してゐる。ドイツの軍備平等に對する主義上の權利を認めんとする一九三三年のマクドナルド氏の提案に示されたドイツ軍備の適合化に對して妥協點を發見せんとする試み、事實上ドイツの現有空軍力の是認を意味するドイツの空軍協定參加招請、乃至は三月十六日以後の最近の英國宣言の調子が非常に隱かであつたこと等はドイツの戰備を容易ならしめ、ドイツの侵略的なグループを鼓舞してゐる。

現在の情勢は戰爭か平和か——たゞ一途あるのみである。これ以外のものは何ものもあり得ずま

た事實ないであらう。もしそれヨーロッパ自體に平和を擁護する十分な鬪爭力があるなら適宜『戰爭の鬼婆』を却けることは易々たることだ。それは無論ある。まづ第一ソヴィエト聯邦である、ソヴィエト聯邦は建設の當初から外交政策の旗印に『平和のための鬪爭』といふスローガンを掲げてゐる、これに伴ふ他の總ての政策——一般的軍縮に關する問題確立多數國家と不侵條約の締結、聯盟加入及び最近におけるフランス、チェッコ・スロヴアキアとの相互援助條約の締結等——すべてこれは全世界における完全な平和の擁護者たることを物語るものであるが、その擁護者は最も熱烈なかつ眞面目な鬪爭者であるソヴィエト聯邦においてはじめてこれを捜すことが出來る。フランス、イタリー、チェッコ・スロヴアキア及び多の他數國家も最近の外交政策で示した如く平和擁護のために鬪はんとしてゐる。內政で多忙な英國にはボールドウィン氏の聲明『ライン上の空中國境』がありながら戰爭に興味をもたぬ、否平和擁護の決定的鬪爭がはじまつた際には仲裁者の役をなさんとするのである。かくの如き狀態であるから相互援助條約を締結して集團的安全保障をなさんとするソヴィエト聯邦の提案は全く時宜に適したばかりでなくヨーロッパの現狀からして平和のための唯一可能の手段である。ソヴィエト聯邦の提案は平和擁護の共同責任に基づいてゐる、その提案は或特定の國家を目あてにせぬと同時に再び起らぬやうに如何なる侵略をも目標としてゐる、これが

卽ち根本主義であり、他の國家他のブロックに對する侵略を目標としてゐた戰前のブロックとは根本的に主義上異なつてゐる。それゆゑにソヴィエト聯邦は戰爭を望まぬ總てのものが該條約に參加することを望んでゐる。ソヴィエト聯邦は東歐援助條約にドイツの參加を歡迎する。ソヴィエト聯邦はドイツの如何なる包圍、まして戰爭など毛頭考へてゐない、しかしてたゞドイツを含む全加盟者が侵略に對し防衛の保證されるやうな制度を造らんとするのみである。現在なほドイツはソヴィエト聯邦の提案したシステムに參加しないが東歐協定は純防禦的性質を變へてはゐない、いつでもドイツのために門戶が開放されてゐる。ソヴィエト聯邦の提案したシステムが實行さるれば戰爭は不可能だ。何故だといふに或る侵略者は常に平和擁護者たる數ケ國の有力なる援助が得られるか否かといふことを考へさせられるからである。問題は人類總ての責任である、地球全體の運命に關する。だから平和を望むものは何人といへども平和と戰爭との間を逡巡彷徨することは出來ない。

列國はドイツを恐る

東日・大毎特別通信員
パリ・マタン紙主筆　ステファヌ・ローザーンヌ

世間の一部には歐洲の列國が好んでドイツを包圍し、これに屈辱を與へやうと陰謀を企てゝゐると觀測を下してゐる者もあるが、それは全く見當違ひである。しかしながら、ドイツの不敵な跋扈に對して列國が共同防禦組織を作らうといふ牢固たる決心はある。何故なら列國ともドイツに對して、共通の不安に驅られてゐるからである。この恐獨思想は、何等の謂れなしといふ者もあるが、何人といへどもドイツがこの恐怖感を製造して來たのを認めないわけには行かない。こゝに第一の例として、實際最もドイツを恐れてゐるかに見えるソヴィエト聯邦を取つて見やう。ドイツは果してソヴィエト聯邦を恐れさせるやうなことを何もしてゐないであらうか。ヒットラーは彼の有名な自敍傳的書物『我が鬪ひ』を書いた時に、ソヴィエト聯邦に對する彼の野心を少しも匿さうとはしなかつた。『ドイツは西部國境に向ふ傳統的進軍を止め、面を東方に向けなくてはならない。東部では我々は我々の近い所に人口稀薄で、しかも土地豐沃、植民に適する大領土を見出すであらう。

それ故わがドイツは、たゞソヴィエト聯邦をのみ念頭に置かう。かの巨大な國こそは今互解の淵に瀕してゐる』といつてゐる。

彼はその意ソヴィエト聯邦を分割して、ウクライナ地方を植民地となすにあることを、出來るだけ明瞭にするため、何回もこのウクライナ問題を繰返してゐる。ヒットラーが單なる政黨の一首領である間は、この意見は只の私見として看過もされやうが、彼が一旦ドイツの元首となつた日からは、これは直にドイツの國策と目さるべきであるから、問題は頗る重大化して來た。況や彼がこの著を再版して全國に普及を圖り、それが宛も福音書の如く羽が生えて賣れた事實を見ると、愈々もつて容易ならぬものとなつて來た。もう一つ考へさせられることは、ドイツはたとひフランスをも含むあらゆる隣接國と相互援助條約を締結しても、ひとりソヴエイト聯邦とのみは、如何なる條約をも一切締結しないと拒んでゐる事實である。かくその著書といひ、その實際外交政策といひ、ヒットラーの遣り口を見ると、モスクワの人心は甚だ穩かならざるものがあらう。

次にイタリーの例を取つて見やう。大戰後の歐洲にあつて、恐らくイタリー程、ドイツとの友好關係醞釀に熱心だつた國はあるまい。イタリーはあらゆる國際會議、殊にジュネーヴの軍縮會議などでは、事毎にイタリーの利益に好意を持ち、度々その肩を持つて列國に楯ついた事がある。イ

タリーこそは、ヒットラーの政權獲得を歡迎し――昨年六月ヴエニスに――彼を招待して親しく會談した最初の國である。ヴエニス會談で、ムッソリーニはヒットラーに、ドイツとあらゆる協力を惜しまぬ旨を語り、その代り唯一つ、ドイツがオーストリアの政治的獨立を尊重するやうにと懇請した。しかもヒットラーは、これを承諾したのであつたが、僅かそれから數週後、オーストリア首相ドルフスはウインでナチスのために暗殺され、ヒットラーの突擊隊は、正にオーストリアに進入せん勢ひを示した。こゝにおいてかムッソリーニにはヒットラー賴むに足らずと見限り、イタリーはドイツの友邦より轉じて忽ち敵國に變つて了つた。これに一體何の不思議があらうか。

最後に英國の例を取つて見やう。英國は本年三月十六日ドイツが、ヴエルサイユ條約軍事條項廢棄の宣言をなした後も、なほドイツと何等か妥協の餘地なきかと考へ、その當時のサイモン外相、イーデン國璽尚書の兩名をベルリンに派遣したのである。三月廿五日ベルリンで、ヒットラー獨總統とサイモン・イーデン兩英代表間に長時間の會談が行はれたが、その際もしもヒットラーが、もつと溫和にその要求を持出すやう注意したら、或は好結果を生んでゐたかも知れない。しかしヒットラーは、激越、貪婪、强慾でさへあつた。彼はドイツが十八世紀頃宗教戰爭に耽つてゐた間に、英國は世界の最良部分を占領し、植民地を作りつゝあつたなどと不平をこぼした。ヒットラーはドイツ

の大戰で失はれたアフリカ植民地をたゞ回復するだけでは滿足せず、別に資源豐富な、氣の利いた新領土を得たいとまで極言した。更に英國と對等の空軍力を主張し、海軍に關しては、ワシントン條約の全ての比率を覆すやうな要求をした。要するにヒットラーはベルリン會談で、サイモン、イーデン兩英代表に、ドイツはあれもこれもと際限なく要求し、しかも一事が達せられゝば、更につけ上つて要求するものだといふ印象を與へたのである。これでは英國とても、また他の列國と同樣ドイツを恐れるようになつたとて、不思議はないではないか。

ストレーザ會議は四月十一日から行はれ、以上の恐怖が一團となつて協議の結果、對獨防禦工事が開始された。同會議席上、マクドナルド英首相は昂然と、英國は歐洲列國と協力する考へだと力說し『平和の扉は常に開かれてゐる。我々はそれを開かれたまゝにして置くであらう。しかし我々はその扉の背後に立つてゐる必要がある。英國は決して友邦を見かへるやうなことはしない。我々は友邦と密接に手を組んでその範圍を益々擴張せんと欲するものである。もし我々友邦の列に伍せんと思へば、何國も條約の冒瀆を平然と考へてはならないであらう』といつた。近くダニューブ會議で、東歐バルカン、西歐諸國が相會して、平和の防禦工事を協議する筈である。ドイツがオーストリアの獨立保全に贊成すれば、その防禦工事は餘り大騷ぎをする必要はない。しかし一旦拒絕

すれば、工事は大急ぎで着手される必要がある。いふまでもなく現在の歐洲は、たとひ條約が平和を保證するものであつても、列國は各自强くなければならないといふ考へを持つてゐる。

――了――

噴火山上の歐洲
世界大戰再び起るか
―大舞台に躍る群雄―

昭和十年八月十五日印刷
昭和十年八月十八日發行

定價五十錢

編輯兼發行人　東京市麴町區有樂町一丁目十一番地　相馬基
印刷人
印刷所　東京市麴町區有樂町一丁目十一番地　東京日日新聞發行所
發行所　東京市麴町區有樂町一丁目十一番地　東京日日新聞發行所
同　大阪市北區堂島上二丁目三十六番地　大阪毎日新聞社

不許複製

日露大海戰を語る

四六判・五百八十餘頁・挿畫寫眞版數十葉・色刷戰局地圖挿入　一部四十錢（送料八錢）

「日露大海戰を語る」はわが無敵海軍の實戰祕錄で深謀を帷幄に運らす提督ありの奇策と大膽を以て敵膽を寒からしむる將士の奮鬪あり、忠勇義烈なるわが將士の奮戰活躍は讀む者をして手に汗を握らしむ。本書は出版界空前の廉價版です。

「日露海戰回顧寫眞帖」は海軍省及び東京水交社祕藏の國寶的寫眞三百有餘を蒐錄せるものにして門外不出のもの、悲絕壯絕盡忠報國の將士によつて彩られたる尊き記念寫眞帖です。各家庭に必ず備ふべき比類なき記念出版です。

日露海戰回顧寫眞帖

四六倍判・横型・表紙オフセット印刷數度刷・收錄寫眞三百數十葉　一部三十錢（送料四錢）

（本紙販賣店又は書店にあり）

東京日日新聞社
大阪毎日新聞社

定價五十

687
3